

単元の指導計画

一単位時間の指導計画

事例No.	教科（学年／段階）	学校／学級	ページ
事例 1	小学校国語科（第 4 学年）	聴覚障がい特別支援学校小学部	1、2
事例 2	小学校算数科（第 3 学年）	肢体自由特別支援学校小学部	3、4
事例 3	中学校国語科（第 2 学年）	視覚障がい特別支援学校中学部	5、6
事例 4	中学校数学科（第 2 学年）	聴覚障がい特別支援学校中学部	7、8
事例 5	高等学校国語科（第 1 学年）	視覚障がい特別支援学校高等部	9、10
事例 6	高等学校数学科（第 1 学年）	病弱特別支援学校高等部	11、12
事例 7	知的障害国語科（小学部 1 段階）	肢体自由特別支援学校中学部	13、14
事例 8	知的障害算数科（小学部 1 段階）	肢体自由特別支援学校小学部	15、16
事例 9	知的障害国語科（小学部 2 段階）	知的障がい特別支援学校小学部	17、18
事例10	知的障害算数科（小学部 2 段階）	知的障がい特別支援学校小学部	19、20
事例11	知的障害国語科（小学部 3 段階）	聴覚障がい特別支援学校小学部	21、22
事例12	知的障害算数科（小学部 3 段階）	知的障がい特別支援学校小学部	23、24
事例13	知的障害国語科（中学部 1 段階）	知的障がい特別支援学校中学部	25、26
事例14	知的障害数学科（中学部 1 段階）	病弱特別支援学校中学部	27、28
事例15	知的障害国語科（中学部 2 段階）	聴覚障がい特別支援学校中学部	29、30
事例16	知的障害数学科（中学部 2 段階）	知的障がい特別支援学校中学部	31、32
事例17	知的障害国語科（高等部 1 段階）	知的障がい特別支援学校高等部	33、34
事例18	知的障害数学科（高等部 1 段階）	肢体不自由特別支援学校高等部	35、36
事例19	知的障害国語科（高等部 2 段階）	知的障がい特別支援学校高等部	37、38
事例20	知的障害数学科（高等部 2 段階）	知的障がい特別支援学校高等部	39、40
事例21	小学校国語科（第 1 学年）	言語障がい特別支援学級	41、42
事例22	小学校算数科（第 4 学年）	自閉症・情緒障がい特別支援学級	43、44
事例23	中学校国語科（第 1 学年）	自閉症・情緒障がい特別支援学級	45、46
事例24	中学校数学科（第 1 学年）	自閉症・情緒障がい特別支援学級	47、48
事例25	自立活動／小学校国語科（第 3 学年）	小学校通級による指導（LD）	49、50

事例1 根拠に基づいて自分の考えをまとめ、表現する指導

【児童の実態】

小学部第4学年の児童は、聴覚を活用するとともに、発表をするときは、手話や指文字を使いながら表現しようとするなど、場の状況等に応じてコミュニケーションの方法を選択しようとする意識が高まっている。
本文中に出てくる難語句等については、これまでも、宿題や家庭学習等を活用しながら調べ学習等を進めてきているが、基本的な語彙が十分に身に付いていなかったり、生活経験が不足していたりするため、定着に時間がかかる。また、書くことについては、自分の考えを文章に表現することができるようになってきているが、表現が稚拙であったり、理由や根拠を明確にしながらかくことが難しかったりする。

【単元の指導計画】

学年：小学部第4学年 単元名：「ごんぎつね」 教材：小学校第4学年用国語教科書

単元の目標

- ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにする。【知識及び技能】
- ・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができる。【学びに向かう力、人間性等】

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。	① 「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している ② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。	① 積極的に、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって物語のポスターを作ろうとしている。

単元の指導計画

時	○主な学習活動 ・内容 ※指導上の配慮	知	思	態
1 2 3	○ 単元の学習課題を確認する。 「ごんぎつね」のおもしろさをポスターにまとめ、友達に推薦しよう。 ○ 登場人物を確認し、作品の全体像をとらえる。 ・登場人物を確認し、それがどのように紹介されているか確かめる。 ※ 難しい語句等について動作化したり、画像や動画の視聴により間接的に経験したりする。 ・ごんの気持ちが分かる表現を場面ごとに見付け出し、気持ちの変化について考えを話し合う。	①	①	
4 5 6	○ ごんと兵十の心の動きを読む。 ・ごんに対する兵十の気持ちや関係の変化を読む。 ○ ごんと兵十の心のつながりについて考える。 ・ごんと兵十の心のすれ違いやつながりについて考えを書く。 ※ <u>自分の考えを文で書いて表現する活動を通して、学習言語の習得を図るとともに、言語による思考力を高める。</u> ・書いたものを紹介し合い、場面の移り変わりと人物の心情の変化について、考えを整理する。	①	① ②	
7 8	○ この物語のおもしろいところや工夫されているところを薦めるポスターを書く。 ※ <u>効果的な見出しの付け方など、これまでの学習を生かしてポスターを書く。</u> ・物語の内容をもとに、ポスターの題名を考える。 ・出来上がったポスターを読み合う。			①

ポイント①

ポイント③

【一単位時間の指導計画】

本時の目標

- ・場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化を結び付け、登場人物の心のつながりについて考え、表現することができる。【思考力、判断力、表現力等】

本時の展開（6／8時間）

	○主な学習活動 ・内容	※指導上の配慮	■評価規準 □評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までの振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習を振り返り、想起する。 ○ 学習課題の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習課題を確認し、学習課題に対する本時の見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ごとと兵十の心のつながりについて考えよう。 </div>	※ デジタル教科書を活用して大型提示装置に投影したり、児童の発言等をまとめた掲示物等を使ったりしながら、前時までの学習内容を、視覚情報を用いて振り返る。	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 気持ちの変化等の読み取り <ul style="list-style-type: none"> ・ごんの兵十に対する気持ちが読み取れる表現を確認し、場面ごとに整理する。 ・兵十のごんに対する気持ちが読み取れる表現を確認し、場面ごとに整理する。 ○ ごとと兵十の心のつながりについて、思ったことを話し合う。 	※ 板書したり掲示物で確認したりすることにより、児童が自身の考えをまとめるための手掛かりとなるようにする。 ※ <u>音声、手話、指文字等を活用することにより、児童が主体的かつ活発に話し合うことができるようにする。</u> <div style="background-color: black; color: white; padding: 2px 10px; display: inline-block; margin-top: 5px;"> ポイント② </div>	■ 文章を読んで理解したことに基づいて、登場人物の心情変化等について、感想や考えをもっている。 □ 記述内容 □ 発言内容
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・話し合ったことを基に、ごとと兵十の心のつながりについて、自分の考えをノートにまとめる。 ○ 振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・本時の授業を通して分かったことをノートに書いてまとめる。 	※ 話し合った内容について振り返るとともに、児童の考えを整理する。 ※ 児童が分かったことをまとめる際には、考えた理由や根拠となる本文中の表現等を明確に示しながら書くことができるよう、声掛けを行ったり、個別に指導したりする。	

事例2 視覚認知能力等に困難さがある児童に対する算数科の指導

【児童の実態】

対象学級の教育課程は、小学校の当該学年に準ずる教科で編成されている。指導に当たっては、肢体不自由の状態に応じた補助具等の使用のほか、視覚認知の偏りへの支援等も行っている。
 また、ほとんどの児童が隣接する病院に入院しており、入院が長期にわたっている児童や生活や運動に制限のある児童については、外出や集団生活の経験が不足していることから、受け身になり、自分の意見を発言することが苦手な児童もいる。

【単元の指導計画】

学年：小学部第3学年 単元名：「三角形」 教材：小学校第3学年用算数科教科書

単元の目標

- ・二等辺三角形、正三角形の特徴について理解し、図形の性質を見出したり構成の仕方を考えたりする力を身に付けるとともに、基本的な図形と関連して角について知る。【知識及び技能】
- ・図形の特徴を見出すことに進んで関わり、身の回りのものの形を二等辺三角形、正三角形として捉える。【思考力、判断力、表現力等】
- ・二等辺三角形、正三角形の特徴を調べたり、構成したりすることに主体的に取り組むとともに、身の回りから図形を見付けようとしたり、二等辺三角形や正三角形を敷き詰める活動を通して、平面図形の広がりや図形の美しさを感じたりしている。【学びに向かう力、人間性等】

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 二等辺三角形、正三角形について理解し、作図などを通してそれらの関係に着目することができる。また、基本的な図形と関連して角について知っている。	① 図形を構成する要素に着目し、構成の仕方を考えるとともに、図の性質を見出し、身の回りのもの形を図形として捉えている。	① 二等辺三角形、正三角形に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、生活や学習に活用しようとしている。

単元の指導計画

時	○主な学習活動 ・内容 ※指導上の配慮	知	思	態
1 ・ 2 ・ 3	○ 4種類のストローを使っていろいろな三角形を作り、辺の長さに着目して分類し、二等辺三角形、正三角形について知る。 ※ <u>上肢に不自由があり、細かな調整が苦手な児童は、タブレット端末を使用し、いろいろな三角形が作成できるようにする。</u> ○ 身の回りから二等辺三角形や正三角形のものを見つける。 ○ 単元の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-top: 5px;">二等辺三角形や正三角形の特徴について理解し、図形の性質を見だし、構成の仕方を考える。</div>			①
4 ・ 5	○ 定規とコンパスを使って、二等辺三角形の作図の仕方を考える。 ※ <u>プリントやコンパスが固定できるような用具や下敷きを用意する。</u> ポイント② ※ <u>じっくり課題に取り組めるよう時間を確保する。</u> ○ 二等辺三角形の作図の仕方をもとに、正三角形の作図の方法を考える。 ○ 円の半径を使って三角形を作図し、二等辺三角形や正三角形ができることを説明する。 ・二等辺三角形や正三角形の構成の仕方について、図形の性質をもとに説明する。 ※ <u>黒板上にフラフープと糸等を使用して、視覚的に課題が理解しやすい環境を整える。</u>	①		①
6 ・ 7	○ 三角定規の角の大きさを比べることなどとおして、角の意味、角の大きさについて知る。 ※ <u>三角定規を固定できるようにし、三角定規が使用しやすいようにする。</u> ○ 角を重ね合わせて比べることとおして、二等辺三角形は2つの角の大きさが等しく、正三角形は3つの角の大きさが等しくなっていることを知る。	①		①
8	○ 「三角形でもようを作ろう！」という目的意識から、二等辺三角形や正三角形を敷きつめた模様を作る。 ※ <u>マグネットで作成したいろいろな色の図形や三角形を利用して、児童が模様を作成したり、図形から三角形を探したりするなど多面的に考えられるようにする。</u>		①	①
9	○ 単元のまとめをする。	①		①

【一単位時間の指導計画】

本時の目標

- ・二等辺三角形や正三角形を敷き詰めた図の中に他の図形を認めたり、平面図形の広がりや図形の美しさに気付いたりして表現している。【思考力、判断力、表現力等】

本時の展開（8／9時間）

	○主な学習活動 ・内容	※指導上の配慮	■評価規準 □評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までの振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・二等辺三角形、正三角形の条件を思い出す。 ○ 学習課題を確認する <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> 三角形で模様を作ろう！ </div> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に対する見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 二等辺三角形、正三角形を視覚的に提示し、それらの条件を確認する。 ※ <u>三角形を使用した模様や標識を想起させ、三角形を用いた図形や模様を作成しやすいようにする。</u> ※ <u>実際に児童と三角形を用いて模様（四角形・花）を作成するなどして見通しをもたせる。</u> 	<p>ポイント①</p>
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 二等辺三角形、正三角形から模様を作成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・具体物を利用して三角形から図形や模様を作成する。 ○ 他の図形（第4学年で学習予定の平行四辺形など）の中に三角形を探し出す。 <ul style="list-style-type: none"> ・他の図形の中に三角形を当てはめ、三角形を認める。 ○ <u>自分の作成した図形や模様をタブレット端末などを使用し他の児童と交流する。</u> <ul style="list-style-type: none"> ・作成した図形や模様について工夫したところを交流する。 ・他の図形の中にどのように三角形が認められたか説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 時間配分を提示する。 ※ <u>活動しやすいように、書見台等を用意し、車いす上や机上での学習がしやすいようにする。また、児童の姿勢を整える。</u> <p>ポイント②</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ <u>タブレット端末を利用して交流できるように、テレビと発言する児童のタブレット端末をケーブルでつなぎ、テレビ画面上で発言者の作品や工夫したところを児童全員が見ることができるようになる。</u> ※ <u>司会者を決め、話合いがスムーズに行えるように手順を提示する。</u> 	<p>■二等辺三角形や正三角形の特徴を意識して、平面図形の広がりや図形の美しさに気付いて表現している。</p> <p>□行動観察 □グループでの話合い</p> <p>ポイント③</p>
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・三角形を使用して様々な模様が作成でき、他の図形の中に三角形を認めることができたことを確認する。 ○ 振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・今日の課題に対して自己評価を行い、気が付いたことを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 他の図形と三角形を色分けし、どのように三角形が認められるか視覚的に分かりやすくする。 ※ 三角形を用いて様々な表現ができたことを称賛する。 	

事例3 文章の構成や論理の展開に着目させる指導

【生徒の実態】

中学部第3学年の生徒は、弱視児で、主に視覚を活用して情報を得ることができるが、中には、拡大教科書や視覚補助具を活用しても、限られた情報や経験の範囲で概念形成が十分でなかったり、理解が一面的だったりするなど、文章を読み、内容を理解することが難しいなどの課題がある。

また、読書の際には視距離が極端に短くなったり、倍率の高いルーペを使ったりする必要があることから、眼精疲労がある生徒も多く、日常的に読書に親しむ習慣が身に付いていない生徒が多い。

【単元の指導計画】

学年：中学部第2学年

単元名：「論理を捉えて」

教材：中学校第2学年用国語科教科書

単元の目標

- ・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。【知識及び技能】
- ・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。	① 「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。	① 粘り強く論理の展開について考え、学習の見通しをもって筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめようとしている。

単元の指導計画

時	○主な学習活動	・内容	※指導上の配慮	知	思	態
1	○ 単元の学習課題を確認する。 文章の構成や論理の展開に着目して、文章の内容を捉える ○ 全文を通読し、概要を把握する。 ○ 注意する語句・新出漢字を確認する。 ・新しい語句や漢字を活用して短文を作る。 ※ 事前に宿題で調べたものを発表させる。			①		
2 ・ 3	○ 文章全体を序論・本論・結論に分け、文章の構成に着目し、内容を捉える。 ・操作活動などを通じた直接体験によって具体的なイメージを形づくる。 ・論理を把握する上で注目すべき語句に着目させ、次の内容を予測しながら考える。 ③ 他 ^① の教科と関連する内容について考える。 ※ 文章を分けるための基準を明らかにするために、それぞれのまとまりのはたらきについて振り返らせる。		ポイント① ポイント② ポイント③		①	
4 ・ 5	○ 筆者が考えるイースター島と地球との共通点を読み取る。 ・「モアイの秘密」を解き、それを基に地球の未来を語る筆者の論理の展開について、「効果」や「説得力」という観点から話し合う。				①	
6 ・ 7	○ 筆者の主張に対する考えを文章にまとめる。 ○ 学習を振り返る。 ・論理の展開を捉えるとき、どのような点に着目すると効果的か、自分の言葉で説明する。					①

【一単位時間の指導計画】

本時の目標

- ・文章の構成や論理の展開について考えることができる。【思考力、判断力、表現力等】

本時の展開（3／7時間）

	○主な学習活動 ・内容	※指導上の配慮	■評価規準 □評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までの学習を振り返る。 ・文章の大まかな内容について、段落ごとに振り返る。 ○ 本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">文章の構成に着目し、内容を捉えよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ※ 前時までの学習の中で特に必要な部分にポイントを絞って振り返るとともに、本時の課題を確認する。 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文章の構成に着目し、内容を捉える。 ・難しい語句の意味を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・文章全体を序論・本論・結論に分け、筆者が序論で示している問いと、それに対する答えに気付く。 ・答えの根拠として挙げられている事実を要約し、ワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 「ころ」について、ひもで括ったレンガブロックを円柱状の積み木の上に置いて動かす経験をさせることで、大きく重い物を軽い力で移動させる方法の具体的なイメージを形づくるようにする。 <div style="text-align: right; background-color: black; color: white; padding: 2px 10px; font-weight: bold;">ポイント①</div> <ul style="list-style-type: none"> ※ 年間指導計画において、理科「運動とエネルギー」の学習内容と関連付ける。 <div style="text-align: right; background-color: black; color: white; padding: 2px 10px; font-weight: bold;">ポイント③</div> <ul style="list-style-type: none"> ※ 論理を把握する上で注目すべき語句「それにしても、しかし、では、こうして」などの言葉に着目し、論理の展開を予測しながら読み取るようにする。 <div style="text-align: right; background-color: black; color: white; padding: 2px 10px; font-weight: bold;">ポイント②</div>	<ul style="list-style-type: none"> ■「読むこと」において、文章の構成や論理の展開について考えている。 □ワークシート
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考えを発表する。 ・自分の考えを再構築する。 ・全体で考えを交流する。 ○ まとめ ・文章の構成や論理の展開について考えたことを基に、次時の学習を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 各自まとめたワークシートの内容を発表させる。 	

事例4 既習事項を活用し、身近な課題について考察する指導

【児童の実態】

中学部第2学年の生徒は、数学的な事象に興味をもって意欲的に学習に取り組もうとする様子が見られるが、学習内容が複雑になったり、単元で扱う用語の理解が不十分だったりすると、主体的に学習に取り組むことが難しくなることがある。学級全体で、学習内容を丁寧に確認しながら学習を進めていくことにより、単元の基本的な学習内容を理解するとともに、学習したことを活用して、課題や問題に取り組むことができる。

一方、生徒が自ら学習課題を既習事項と結び付けて考えたり、学習したことを日常生活の中で生かそうとしたりすることが難しく、教師が意図的に問い掛けるとともに、内容を関連付けて説明する必要がある。

【単元の指導計画】

学年：中学部第2学年 単元名：「1次関数」 教材：中学校第2学年用数学科教科書

単元の目標

- ・1次関数について理解し、事象の中には1次関数としてとらえられるものがあることを知り、2元1次方程式を関数を表す式とみることができる。【知識及び技能】
- ・1次関数としてとらえられる2つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。また、1次関数を使って具体的な事象をとらえ考察し表現することができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・1次関数のよさを実感して粘り強く考え、1次関数について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、1次関数を使った問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりしている。【学びに向かう力、人間性等】

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 1次関数の意味や特徴、問題解決の方法等について理解している。 ② 2元1次方程式を関数を表す式とみることができる。 ③ 事象の中には、1次関数としてとらえられるものがあることを知っている。	① 1次関数として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し、表現することができる。 ② 1次関数を用いて具体的な事象を捉え、考察し、表現することができる。	① 1次関数のよさを実感して粘り強く考え、1次関数について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、1次関数を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりしている。

単元の指導計画

時	○主な学習活動 ・内容 ※指導上の配慮	知	思	態
1 5 9	○ 単元の学習課題を確認する。 1次関数や方程式のグラフなどについて考える。 ○ 1次関数、1次関数の値の変化 ・1次関数の意味、1次関数になる数量の関係、変化の割合の意味 など ○ 1次関数のグラフ ・1次関数のグラフと比例のグラフ、変化の割合と直線のグラフの傾き など ○ 1次関数の式の求め方 ・切片と傾きによる直線の式の求め方 ・1点の座標と傾き、2点の座標による直線の式の求め方 など	①	①	
10 5 12	○ 2元1次方程式のグラフ ・2元1次方程式の解とグラフ、2元1次方程式のグラフの書き方 など ○ 連立方程式とグラフ ・連立2元1次方程式のグラフの交点、2直線の交点の座標の求め方 など ※ 主体的に学習が進められるよう、生徒の言語概念や読み書きの力に応じ、指導内容を適切に精選し、基礎的・基本的な事項に重点を置いた指導を行う。	②	① ②	①
13 5 18	○ 1次関数の活用 ・水を熱したときの時間と水温、移動した時間と距離及び印刷枚数と料金の関係 ・点の移動と三角形の面積の変化 など ※ 1次関数が日常生活や他の教科の学習など様々な場面で活用できることを確認する。	③	②	①

ポイント①

ポイント③

【一単位時間の指導計画】

本時の目標

- ・具体的な事象を1次関数とみなして、身の回りの問題を考察することができる。【思考力、判断力、表現力等】

本時の展開（13/18時間）

	○主な学習活動 ・内容	※指導上の配慮	■評価規準 □評価方法														
導入	<p>○ 問題を提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>あやのさんたちは、お茶を飲むために、やかんでお湯を沸かすことにしました。水を熱し始めてから、x分後の水温をy°Cとすると、5分後までの水温の変化は、下の表のようになりました。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>x (分)</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>y (°C)</td> <td>12.0</td> <td>17.2</td> <td>23.7</td> <td>29.3</td> <td>34.0</td> <td>39.6</td> </tr> </table> <p>水温が80°Cになるのは、およそ何分後と予想できるでしょうか。</p> </div> <p>○ 問題の解決方法を予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうすれば問題が解決するか、方法について話し合う。 <p>○ 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>水を熱したときの時間と水温の関係について、1次関数の考え方が利用できるか考えよう。</p> </div>	x (分)	0	1	2	3	4	5	y (°C)	12.0	17.2	23.7	29.3	34.0	39.6	<p>※ 音声、手話、指文字等を活用し、生徒同士の話し合いや教師と生徒の対話が活発に行われるようにする。</p> <p>※ 必要に応じてFM補聴システム等を利用し、生徒の保有する聴覚を最大限活用しながら、話し合いが行われるようにする。</p>	<p>■ 1次関数を用いて具体的な事象を捉え、考察し、表現している。</p> <p>□ 発言内容</p> <p>□ 記述内容</p>
x (分)	0	1	2	3	4	5											
y (°C)	12.0	17.2	23.7	29.3	34.0	39.6											
展開	<p>○ 問題の内容を追及する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水を熱したときの時間と水温の関係について考える際に、1次関数の考え方が利用できるか話し合う。 ・表やグラフを使って、xとyがどのような関係にあるか考え、理由を説明する。 <p>○ 問題を解決する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水温が80°Cになるときの時間について、タブレット端末に取り込んだ座標軸に直接、点や自分の考え等を書き込み、大型投影装置に投影しながら、発表する。 	<p>※ <u>表やグラフを大型モニターに映し出すことにより、情報を視覚的に獲得しやすくするとともに、学習集団全体で共有・確認しながら進められるようにする。</u></p> <div style="text-align: center; background-color: black; color: white; padding: 2px 10px; font-weight: bold;">ポイント②</div> <p>※ 生徒に、学習の中で扱った用語を用いて説明させることにより、生徒の理解及び定着の状況を確認する。</p>	<p>■ 具体的な事象の中から取り出した2つの数量の関係を1次関数とみなし、変化や対応の様子を調べたり、予測したりしている。</p> <p>□ 記述内容</p>														
終末	<p>○ まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1次関数を活用して問題を解決するための考え方や、その方法について確認する。 <p>○ 本時の学習内容を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容について分かったことやできるようになったことをまとめる。 ・他にも、1次関数を利用して問題解決を図ることができる身近な問題がないか、生徒に問い掛けることにより、次時の課題を意識させる。 	<p>※ まとめの内容を板書することにより、本時における学習内容を視覚的に確認できるようにする。</p>															

事例5 要旨や要点を把握する指導

【生徒の実態】

高等部第1学年は、普通の文字を使用する生徒1名、点字を使用する生徒1名、視力の急激な低下により文字の使用が困難な生徒1名の3名のクラスである。点字又は普通の文字についての指導を継続して受けてきた生徒は、中学部までの指導で、障がいの状態に応じた読み書きに関する基本的な知識や技能は身に付けている。

視力の急激な低下により文字を効率的に使用することが困難な生徒については、聴覚や触覚等、視覚以外の情報も活用しながら学習している。

【単元の指導計画】

学年：高等部第1学年 単元名：「論理的な文章の内容や構成、論理の展開について理解し要旨を把握しよう」

教材：高等学校第1学年用国語科教科書

単元の目標

- ・主張と論拠など情報と情報との関係について理解することができる。【知識及び技能】
- ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握することができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。【学びに向かう力、人間性等】

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。	① 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。	① 論理的な文章の要約を通して、自らの生活の中にも、主張と論拠の視点を取り入れて行動しようとしている。

単元の指導計画

時	○主な学習活動	・内容	※指導上の配慮	知	思	態
1. 2	○ 単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ・ <u>これまでの学習や読書経験を振り返り、説得力の高い論理的な文章の特徴について全体で話し合い、既習の内容と本単元との関連について理解する。</u> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">論理的な文章の内容や構成、論理の展開について理解し、要旨を把握する。</div> ○ 全文を通読し、概要を把握する。 ・ それぞれの文章の主張と論拠、それらの関係について考え、主張と論拠との関係について理解する。 ※ <u>視覚障がいの状態の変化等により読むことが苦手な生徒には、音声教材を用いるなどして理解ができるようにする。</u> ○ 注意する語句・新出漢字の確認 ・ <u>点字を常用して学習する生徒にとっても漢字・漢語に対する理解を深めることが大切であることから、新しい語句や漢字を活用して短文を作るようにする。</u> ※ 事前に宿題で調べたものを発表させる。				①	
3. 4	○ 前時と同じテーマを取り上げた、やや長い論理的な文章を読み、主張、論拠、文章の構成、論理の展開についてワークシートに記入した後、コンピュータ等を活用し200字程度（漢字仮名交じり文）で要約する。			①		
5. 6	○ グループで互いの要約を読み、気付いたことを述べ合う。 ・ グループで話し合ったことを全体で発表し共有する。 ・ 単元全体を通じた学習の振り返りを行い、文章の要旨を把握する上での留意点等を理解し、自らの考えを深める。					①

【一単位時間の指導計画】

本時の目標

- ・短い論理的な文章や教科書の本文を読み、主張と論拠との関係について理解する。

【思考力、判断力、表現力等】

本時の展開（2／6時間）

	○主な学習活動 ・内容	※指導上の配慮	■評価規準 □評価方法
導入	<p>○ 全文を通読し、概要を把握する。 ・段落ごとに、順に読ませる。</p> <p>○ 注意する語句・新出漢字を確認する。 ・<u>新しい語句や漢字を活用して短文を作る。</u> ※ 事前に宿題で調べたものをクラウドに保存発表させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> 主張と論拠との関係について理解する。 </div>	<p>※ <u>読むことが苦手な生徒には、朗読CDを貸与し、事前学習させる。</u></p> <p style="text-align: center;">ポイント①</p> <p>※ <u>宿題として、漢字や熟語を調べさせる。（ICT機器の活用）</u></p> <p style="text-align: center;">ポイント②</p> <p>※ 電子データをクラウドに保存することで、使用する文字に拠らず、他の生徒が作成した短文を読むことができるようにする。</p>	
展開	<p>○ 短い論理的な文章を読み、文章の構成を捉える。 ・主張と論拠、文章の構成や論理の展開について、ワークシートに記入する。</p> <p>○ 教科書本文における文章の構成を捉える。 ・主張と論拠それぞれをワークシートに抜き出す。</p>	<p>※ 主張と論拠などに着目させながらワークシートを作成させる。</p> <p>※ 一人一人の見え方や使用文字に応じたワークシートを用意する。</p> <p>※ 主張を示した表現、論拠を示した表現に異なる線や色を記して区別させる。（点字を使用する生徒については、付箋紙やクリップを用いて印を付ける。）</p>	<p>■ 論理的な文章の中から主張と論拠を示す表現を区別し、それらの関係についての的確に理解しているか。</p> <p>□ ワークシート、ノート</p>
終末	<p>○ ワークシートに記述した、それぞれの主張と論拠との関係について、そのように言える理由について発表する。 ・発表を聞き、それぞれの主張と論拠の共通点について理解する。 ・作成したデータをクラウドに保存させる。</p> <p>○ 次時の予告をする。 ・各自、次時の学習に見通しをもつ。</p>	<p>※ 家庭学習で課題の整理に取り組めるようクラウドへ保存させる。</p>	

事例6 日常の事象などを数学的に捉え、問題解決に数と式を活用する指導

【生徒の実態】

対象学級の生徒は、入院しながら病院に隣接する特別支援学校で学んでいる。
 神経・筋疾患を起因疾患としている生徒は電動車いすで姿勢や上肢の動きに応じた補助具等の使用が必要であり、PCでデジタル教科書を閲覧するとともに、ディスプレイ・キーボードにより文字入力をしている。
 うち1名は、特に感染予防が必要であることから、別室で副担任と一緒に学習しており、本時にはオンラインで参加している。
 生徒はいずれも、支援を待つ傾向があり、自立活動では、自分で生活環境の調整を行えるよう指導している。

【単元の指導計画】

学年：高等部第1学年 単元名：「一次不等式」 教材：高等学校第1学年用数学科教科書

単元の目標

- ・不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、一次不等式の解を求めることができる。【知識及び技能】
- ・絶対値を含む方程式や不等式が解けるようにする。【知識及び技能】
- ・日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、一次不等式を問題解決に活用することができる。
【思考力、判断力、表現力等】
- ・不等式を生活の中の様々な問題にも当てはめ、考察しようとする。【学びに向かう力、人間性等】

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、一次不等式の解を求めることができる。	① 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、一次不等式を問題解決に活用している。	① 一次不等式について学んだことを、具体的な問題の解決に生かそうとしている。

単元の指導計画

時	○主な学習活動 ・内容 ※指導上の配慮	知	思	態
1 ┌ 4	○ 不等式の性質 ・不等式の性質を数直線で考察する。 ・数量の関係を一次不等式で表す。 ※ <u>数直線を用いて中学校の数学で用いた正の数と負の数とを関連付けて、視覚的に想定できるようにする。</u> 不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、問題の解決に一次不等式を活用する。	①		
5 ┌ 9 (本時⑦)	○ 1次不等式 ・一次不等式を解く手順について考察する。 ・一次不等式とその解の意味及び解を求める方法を説明する。 ・数量関係を不等式で表し、具体的な事象の考察に一次不等式を活用する。 ※ <u>中学校で学習した方程式の考え方を想起させ、Xの解を求める方法を思い出させる。</u> ※ <u>表計算ソフトで数値をグラフ化し、Xの解の範囲を視覚的に理解しやすくなるようにする。</u> ※ 解き方を提示した練習問題から段階的に難易度を上げていく。	①	①	①
10 ┌ 13	○ 絶対値を含む方程式・不等式 ・絶対値を含む一次不等式を解く。 ※ 絶対値を含む方程式の解き方を視覚的に提示しておく。	①	①	①
14	○ 発展問題 ・具体的な場面で、目的に合うように文字を使い、式に表現して考察する。	①		

ポイント①

【一単位時間の指導計画】

本時の目標

- ・身近な問題を、一次不等式を活用して解決することができる。【思考力、判断力、表現力等】

本時の展開（7/14時間）

	○主な学習活動 ・内容	※指導上の配慮	■評価規準 □評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一次不等式を解く手順を確認する。 ・ 解き方の手順を確認する。 ・ 練習問題を1つ解いてみる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">不等式で身近な問題を解決してみよう</div>	<ul style="list-style-type: none"> ※ 褥瘡の防止や上肢の可動性の確保、黒板等を見えるか等の視点から姿勢を確認する。 ※ オンラインで授業を受けている生徒向けに、板書撮影用のタブレットをWeb会議に接続しておく。 ※ 一次不等式を解く手順の復習を行い、本日の課題に取り組む。 	ポイント②
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題1を解く。 ・ 求めたい解Xは何であるか明確にし、一次不等式を作成する。 ・ 一次不等式の作成方法を発表する。 ・ 一次不等式を解く。 ・ 表計算ソフトで数値をグラフ化し、不等号の向きを確認する。 ・ 数直線でもXの値を表現する。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 問題1と同様に問題2～5を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ <u>入力するとグラフ化するフォームを作成し、解Xの値の範囲が視覚的に確認できるようにする。</u> ※ <u>リクライニングの調整や、水分摂取など、自身で体調管理を行うよう言葉掛けを行う。</u> 	ポイント① ポイント③
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ まとめ ・ 身近な問題を、一次不等式を活用して解く手順をまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 振り返り ・ 身近な問題を一次不等式で解答できたか自己評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 練習問題1、2で何を求めたい解Xにしたのか想起させる。 ※ 身近な問題と数学的思考から解決できたことを称賛する。 	

事例7 言葉への関心を高める指導

【生徒の実態】

中学部第2学年の生徒は、視覚障がいのほか、重度の知的障がいや肢体不自由を併せ有している。視覚障がいについては、顔の近くの物に視線を向けることができる生徒や、光覚反応がなく視覚では物を捉えることが難しい生徒もいる。言語によるコミュニケーションは難しいが、表情や視線、手の動き等で感情を表わすことができるようになってきた。教師は、生徒が自身で周囲の言葉や物に注意を向けたり、応答したりすることができるよう、体幹の安定や疲労の軽減ができる姿勢に調整する等の支援をしている。

【単元の指導計画】

学年：中学部第2学年 単元名：「まほうのはこ」 教材：こくご☆（文科省著作）

単元の目標

- ・身近な人からの話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じるができる。【知識及び技能】
- ・教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気づき、注目することができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・教師の話や読み聞かせに応じ、表情や身体の動きで表現することができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする。【学びに向かう力、人間性等】

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じている。	① 「読むこと」において、教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気づき、注目している。 ② 教師の話や読み聞かせに応じ、表情や身体の動きで表現している。	① 言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、表情や身体の動きで表現しようとしている。

単元の指導計画

時	○主な学習活動	・内容	※指導上の配慮	知	思	態
1 ・ 2 ・ 3	○ 提示される物確かめる。 ・ 目の前の具体物の色や光に注目したり、触感で確かめたりする。 ※ 車椅子の高さや角度を調整し、生徒が活動しやすいよう配慮する。 ○ 物を表す言葉を聞く。					①
	身近な物を表す言葉を聞こう					
4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8 ・ 9	○ 教師の読み聞かせを聞く。 ※ <u>生徒の生活年齢を考慮し、日常生活や学校生活で身近な物の中から、興味のある物、注目しやすい物を教材として選定する。</u> ※ <u>同じやり取りをする学習を繰り返し、言葉から次の展開に期待できるようにする。</u>					
	○ 箱から出てくる物確かめる。 ・ 「まほうのはこ」から出てくる具体物を視覚や触覚で確かめる。 ※ 箱を暗幕カーテンで表現し、出てくる物の色や光に注目しやすくする。 ※ 触感で物確かめられるよう材質等を工夫する。 ○ 気付いたことや感じたことを表現する。 ○ 教師の言葉を聞いて、自身の表出を振り返る。 ※ 生徒が自身の活動を振り返られるよう、視線や表情、手の動きなどをその都度言葉でフィードバックする。				①	
10 ・ 11 ・ 12	○ 前時までと異なる教師による同じ教材を用いた読み聞かせを聞き、これまでの学習内容と一致させる。 ○ 箱から出てくる物に注目する。 ※ 言葉が事物を表していることを生徒が感じられるよう、教師の言葉掛けの仕方を統一する。 ○ 教師の言葉を聞いて、気付いたことを表現する。			①	②	

ポイント①

【一単位時間の指導計画】

本時の目標

- ・教師の読み聞かせに合わせて提示される具体物に気付いて注意を向けることができる。
【思考力、判断力、表現力等】

本時の展開（4 / 12時間）

	○主な学習活動 ・内容	※指導上の配慮	■評価規準 □評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「まほうのはこ」の読み聞かせを聞く。 ・教科書p4～9の教師（MT）の読み聞かせを聞き、「りんご」や「バナナ」の言葉と箱から出てくる実物の色や感触から学習に見通しをもつ。 ○ 学習課題を確認する。 ・教師（MT）の言葉の変化を感じて、「まほうのはこ」から出てくる物に注目する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">箱から出てくる物の名前は何だろう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ※ <u>首や腰が安定するよう車椅子の角度や生徒の座位姿勢を整える。</u> ※ <u>教材が生徒の見やすい角度で提示されているか確認し、適宜調整する。</u> <div style="background-color: black; color: white; padding: 2px; display: inline-block;">ポイント②</div>	<ul style="list-style-type: none"> ■教師の言葉に気付いて注意を向けている。 □視線や表情の変化の観察
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「まほうのはこ」から出てくる新しい物を確かめる。 ・正面の暗幕が開いて現れた物に注意を向ける。 ○ 物の名称を表す言葉を聞く。 ・<u>教師（MT）の「（例）ボールです。」という言葉聞いて、注目した色や触感と言葉を結び付ける。</u> <div style="background-color: black; color: white; padding: 2px; display: inline-block;">ポイント③</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 気付いたことや感じたことを表現する。 ・物を教師（ST）と一緒に受け取る。 ・視線や表情、手の動きで物への注目を教師（ST）に伝える。 ・<u>教師（ST）の「白いボールですね。」や「ふわふわしたボールですね。」という言葉聞いて、自分が捉えた色や触感と結び付ける。</u> <div style="background-color: black; color: white; padding: 2px; display: inline-block;">ポイント③</div>	<ul style="list-style-type: none"> ※ <u>提示する物に注目しやすいよう質感や背景との色の違いに配慮する。</u> ※ 生徒が物へ注意を向けているときは、言葉掛けを極力減らし、活動へ集中できるようにする。 ※ 教材を提示しながら生徒の視線や表情の変化に注目する。 ※ 生徒が気付いたり、感じたりして表出したことをその都度振り返ることができるよう言葉でフィードバックする。 	<ul style="list-style-type: none"> ■見たり触れたりして事物に注意を向けている。 □視線や表情の変化の観察
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ まとめ ・箱から出てきた物を振り返りながら、教師（MT）の言葉（物の名称）を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 生徒が物へ注意を再度向けてから名称を伝え、言葉が事物の内容を表していることを意識できるようにする。 	

事例8 具体物を操作して数量の基礎を身に付ける指導

【生徒の実態】

小学部第1学年の児童は、脳性疾患等による肢体不自由と知的障がいを併せ有している。就学前は、児童発達センターを利用していたものの、幼稚園等への通園歴はなく、入学後も感染症予防等のため外出経験が限られていたことなどから、生活経験の積み重ねが少なく、学習で得た知識や技能を実生活に結び付けることが難しい。上肢のまひや不随意運動があることに加え、視覚的な情報を処理することの苦手さも相まって、具体物を操作する経験が乏しかったが、学校生活を重ね、目的をもって主体的に物を掴んだり、握ったりしようとする様子が多く見られるようになってきている。

【単元の指導計画】

学年：小学部第1学年 単元名：「みんなに、くばりましょう」 教材：さんすう☆（文科省著作）

単元の目標

- ・ものとものを対応させて配ることができる。【知識及び技能】
- ・ものとものを関連付けることに注意を向け、ものの属性に注目し、仲間であることを判断したり、表現したりすることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・数量や図形に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① ものとものを対応させて配ることができている。	① ものとものを関連付けることに注意を向け、ものの属性に注目し、仲間であることを判断したり、表現したりしている。	① ものとものを関連付けることに興味をもって、意欲的にものを配ろうとしている。

単元の指導計画

時	○主な学習活動	・内容	※指導上の配慮	知	思	態
1	○ 絵や実物を見て、給食の配膳場面を想起する。 ・気付いたことを身振りや発声で表現する。 ※ <u>給食の配膳場面であることが分かるよう、登場人物の机にナブキン、お盆、牛乳を配る演示をする。</u> ○ 単元の学習課題を確認する。		ポイント①			①
	みんなに給食のものをくばろう。					
2 ・ 3 ・ 4	○ ナブキンの上にお盆を置く。（ナブキンとお盆を対応させる） ・お盆の「ある」、「ない」を確認し、一つずつ対応させて置く。 ※ 安定した座位で腕を体の前に伸ばすことができるようにする。 ○ お盆の上に牛乳を置く。（お盆と牛乳を対応させる） ※ <u>周囲の視覚的な刺激を減らしたり、具体物を色分けしたりするなど、ものとものを対応しやすい工夫をする。</u> ※ 置いたときに音が鳴るなど、自身の取り組みが聴覚でも確認できるようにする。 ○ 全員で給食の配膳が完了したことを振り返る。 ・一人一人の課題達成を確認し、全員で「いただきます。」の発声や身振りをする。 ※ 他者の取組にも興味をもてるように工夫し、互いに学び合う意欲につなげる。		ポイント②		①	
5 ・ 6	○ お盆や牛乳以外の「配るもの」を考えて発表したり、選択肢から選んだりする。 ※ 児童の手指の巧緻性や空間認知の力に合った具体物や周囲の環境を準備し、ものとものを対応させやすくする。 ○ 教師や友達へ一つずつ配る。 ※ 配ることで、人から感謝や賞賛を受けることを経験し、主体的に取り組む意欲を高められるようにする。			①		①

【一単位時間の指導計画】

本時の目標

- ・ナプキンとお盆、お盆と牛乳をそれぞれ対応させることに注目しながら配ることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

本時の展開（2 / 6 時間）

	○主な学習活動 ・内容	※指導上の配慮	■評価規準 □評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までの振り返り ・教科書p20、21の場面を再現した絵や実物を見ながら前時の活動を思い出す。 ・教材へ手を伸ばしたり、発声したりして気持ちを表現する。 ○ 学習課題を確認する。 ・お盆や牛乳の「ある」、「ない」を確認する。 ・みんなに配ると「いただきます。」ができることを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">お盆と牛乳を一つずつくばろう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ※ 座位保持装置やカットアウトテーブルを使用するなど、上肢を動かしやすい環境を整える。 ※ 手の動きや短い発声での表現を受け止め、言語化して児童に聞かせる。 ※ 既習の「ある、ない」の学習と関連付けながら教材への注目を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ■「ある」、「ない」を発声や指さして答えている。 □発言内容、行動観察
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ ナプキンに一つのお盆を対応させながら配る。 ・お盆の「ある」、「ない」を確認しながら一つずつ配る。 ○ お盆に一つの牛乳を対応させて配る。 ・牛乳の「ある」、「ない」を確認しながら一つずつ配る。 ・牛乳を置いたときに鳴る音を聞き、正しく配ったことを確認しながら取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ お盆に滑り止めシートを敷いたり、牛乳に持ち手を付けたりするなど、操作しやすい工夫を行う。 ※ <u>「正しく配ることができた」という結果が明確になるよう、牛乳を置くと、鈴の音や電子音が鳴るように工夫する。</u> <div style="background-color: black; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">ポイント③</div>	<ul style="list-style-type: none"> ■音を確認しながら進んで物を配っている。 □行動観察
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ まとめ ・全てのお盆と牛乳が配られたことを確認する。 ○ 振り返り ・みんなで「いただきます。」をする場面を再現し、課題の達成を実感する。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 「〇〇さんがみんなに配ってくれました。いただきます。」など、互いの課題達成を共有できるよう振り返る。 	

事例9 模倣や劇化を通して言葉の理解と表現に結び付けた指導

【児童の実態】

小学部第3学年の児童は、身近な人や物への関心が広がり、簡単な言葉によるコミュニケーションができるようになってきているが、自分の気持ちを言葉だけで伝えることや、聞いた言葉からイメージを膨らませることはまだ難しい段階である。少しずつ語彙を身に付けており、身近な物の名前や動作、「うれしい」「悲しい」などの気持ちを言葉で表すことができるようになってきた。絵本の読み聞かせを聞き、擬音語や擬態語など言葉のリズムをまねしたり、挿絵や教師の動きをもとに登場人物の行動をまねしたりして楽しんでいる。

【単元の指導計画】

学年：小学部第3年 単元名：「うさぎと かめ」 教材：こくご☆☆（文科省著作）

単元の目標

- ・読み聞かせに親しんだり、文字を拾い読みしたりして、いろいろな絵本や図鑑などに興味をもつことができる。【知識及び技能】
- ・教師と一緒に絵本を見て、時間の経過などの大体を捉えることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・絵本を見て、好きな場面を伝えたり、言葉などを模倣したりすることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・言葉がもつよさを感じるとともに、読み聞かせに親しみ、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとする。【学びに向かう力、人間性等】

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 読み聞かせに親しんだり、文字を拾い読みしたりして、いろいろな絵本や図鑑などに興味をもっている。	① 「読むこと」において、教師と一緒に絵本を見て、時間の経過などの大体を捉えている。 ② 「読むこと」において、絵本を見て、好きな場面を伝えたり、言葉などを模倣したりしている。	① 言葉を通じて積極的に人に関わったり、学習の見通しをもって言葉や動作を模倣したりしながら、言葉で伝えようとしている。

単元の指導計画

時	○主な学習活動 ・内容 ※指導上の配慮	知	思	態
1	○ 物語の登場人物やその行動、情景などについて確認する。 ※ 教科書を見せ、「これは誰かな」「何をしているところかな」などと発問し、児童が思ったことを発言したり、指をさしたりして物語に対する関心を引き出す。 ○ 絵と対応させて「うさぎ」「かめ」などの平仮名を読む。 ※ 絵と一緒に言葉を文字で示し、教師と一緒に読み、文字への関心を高める。 ○ 単元の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">絵本の好きな場面を選んで、登場人物になりきろう。</div>	①		
2	○ 教師の読み聞かせを聞く。 ※ 「ぴよんぴよん」「のろのろ」等の擬態語や動作などを交えて、児童が自			
3	○ うさぎがかめをかけっこに誘う場面の、かめの気持ちを想像する。 ・ かめの気持ちになり、かけっこの勝負を引き受ける時の一言を言う。		①	
4	○ 一休みしている場面のうさぎと、かめが先にゴールした場面のうさぎの気持ちを考える。 ・ うさぎの気持ちになり、かけっこの途中で一休みする時や、かめが先にゴールした時のうさぎの一言を考えて言う。			
5	○ 他			
6	○ 学校の図書館を活用し、他の昔話を選び、読み聞かせをとおして気に入った場面を選んだり、登場人物の言葉や動作などを模倣したりする。 ※ 話の展開が分かりやすい、親しみやすい内容の物語を選ぶようにする。		②	①

【一単位時間の指導計画】

本時の目標

- ・教師の読み聞かせをとおして、2つの場面におけるうさぎの気持ちを考え、表現することができる。

【思考力、判断力、表現力等】

本時の展開（4／6時間）

	○主な学習活動 ・内容	※指導上の配慮	■評価規準 □評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までの振り返り ・教科書p71の読み聞かせを聞き、うさぎがかめをかけっこに誘った場面を思い出す。 ○ 学習課題を確認する。 ・教科書p72、73のうさぎの様子や表情を捉える。 ・本時の学習課題を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 読み聞かせの際に、「自信满满」にかめをかけっこに誘ううさぎの言葉を教師が演じる。 ※ 「何している」「どんな表情かな」と発問し、絵と動作や感情を表す言葉を結び付けられるようにする。 ※ 「なんで自身满满だったのに悲しい表情になったんだろう」と発問し、学習課題への見通しをもたせる。 	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">うさぎが悲しい表情になったのはなんでだろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に対する見通しをもつ。 		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書p72、73の読み聞かせを聞く。 ○ 「途中で一休みしている場面」のうさぎの気持ちを考える。 ・お面を付けてうさぎ役となり、<u>うさぎの言動を表現する。</u> ポイント① ・うさぎの気持ちになって、一休みしようとする時の一言を言う。 ○ 「かめが先にゴールした場面」のうさぎの気持ちを考える。 ・<u>うさぎの気持ちになって、かめに先にゴールされた時の一言を言う。</u> ポイント① 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 読み聞かせの際に、「はじめに○ ○、さいごに○○」などの時間の経過を表す言葉を添え、児童が場面の違いを捉えやすくする。 ※ 教師はかめのお面を付けて役を演じ、うさぎと対比させて、かめが一步一步ゆっくり走っている様子を表現する。 ※ 教師はかめ役となり、「やった」「休まずに走ったからうさぎに勝った」などとゴールした時のかめの気持ちを表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 余裕、自身满满な様子でうさぎの言葉を表現している。 □ 行動観察 ■ 悔しさや後悔を表すうさぎの言葉を表現している。 □ 行動観察
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ まとめ ・場面の違いによるうさぎの気持ちの変化をまとめる。 ○ 振り返り ・うさぎを演じた感想を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 「うさぎはどうして負けたのかな」と発問し、場面同士のつながりを理解できるようにする。 ※ うさぎの気持ちや様子を表現できていたことを称賛する。 	

事例10 体験を通して集合数と順序数の違いを意識させる指導

【児童の実態】

小学部第3学年の児童は、学習や生活の場面で教師と一緒に数を数えたり、係活動で3個程度のものを配ったりすることができるようになってきているが、5以上のものを数詞と対応させてものの個数や系列、順序を判断することがまだ難しい段階である。算数の授業では、児童の興味のある具体物を使うことで、少しずつ、ものの集まりと数詞を対応させてわかる数字が増えつつあり、数の順番や位置を表現する活動に取り組んでいる。

【単元の指導計画】

学年：小学部第3学年 単元名：「なんばんめ」 教材：さんすう☆☆（文科省著作）

単元の目標

- ・数の系列が分かり、順序や位置を表すのに数を用いることができる。【知識及び技能】
- ・数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の表し方について考え、それらを学習や生活で興味をもって生かすことができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・数量に関心を持ち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ。
【学びに向かう力、人間性等】

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 数の系列が分かり、順序や位置を表すのに数を用いている。	① 数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の表し方について考え、それらを学習や生活で興味をもって生かしている。	① 数量に関心を持ち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぼうとしている。

単元の指導計画

時	○主な学習活動 ・内容 ※指導上の配慮	知	思	態
1	○ 本単元のねらいや内容の説明 ・日常生活で数字や数に関わるものを発見する。 ※ 校内に、順序数や集合数となるものを予め見付けておく。（跳び箱、教室の並び順、運動会用着順旗、下駄箱 等）			①
2 3 4 5 6 7	○ 運動会の順位を競っている5匹のうさぎを、「○番目」と順序で表す。 ・「一番のうさぎはどれ」「青のうさぎは何番かな」などと発問し、順位を確認する。 ・うさぎと賞旗を線で結び、順序と数詞・数字を結び付ける。 ※ 教師がうさぎのペープサートを動かし、かけこの場面を想起できるようにする。 ※ メダルをもらえるうさぎの数を数え集合数を確認するなどして、順序数と集合数の違いに気付けるようにする。 ○ カーレースをしている10台の車の順位を、「○番目」と表現する。 ・「遠くまで走った車はどれ」「パトカーは何番かな」などと発問し、順位を確認する。 ※ マグネットを貼った車、順位旗を用意し、カーレースをイメージできるようにする。 ○ ミニカーでのカーレースを行い、自分の車の順位を、「○番目」と表現する。 ※ カーレースを行い、数を用いて順位を表現する必要性を感じられるようにする。	①	①	
8 9	○ 動物やケーキの位置を、「木の方から数えて○番目」などと順序で表す。 ・教科書に掲載されている様々な動物について、基準を定めたり、基準を変えたりしながら、「(基準) から数えて○番目」と表現する。 ・教室の座席配置を活用し、「○○さんは廊下から数えて何番目かな」「□□さんは窓から数えて何番目かな」などと発問し、自分の位置を順序で表現する。 ○ 紙飛行機大会を開催し、誰の紙飛行機が一番遠くまで飛んだか、順位付けする。 ・誰が紙飛行機を一番遠くまで飛ばせたか順位を確認する。 ※ 体育館などの広い場所を使用し、自分が飛ばした飛行機の位置まで、実際に移動するなどして、自分の順位を確認できるようにする。 ※ 紙飛行機大会を行い、数を用いて順位を表現する必要性を感じられるようにする。			①

ポイント②

ポイント③

ポイント②

【一単位時間の指導計画】

本時の目標

- ・10までの数の範囲で、順位の表し方を考え表現することができる。【思考力、判断力、表現力等】

本時の展開（6／9時間）

	○主な学習活動 ・内容	※指導上の配慮	■評価規準 □評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習内容を確認する。 ・ミニカーを使って、誰が一番遠くまで走らせることができるかを競うゲームを行うことを確認する。 ○ 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自分のミニカーは何位かな。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ※車に固執する児童がいる場合には、電車など題材を別のものに代えるようにする。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習課題に対する見通しをもつ。 ・前時で使用したマグネットを貼った車をランダムに並べて提示し、順序数としての数詞・数字と、集合数としての数詞・数字の違いを確認する。 ・最も遠くまで走った車を一番とし、遠くまで走った車で順位を付けたことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 児童と一緒に車の数を数え、集合数を確認する。 ※ 旗の数字と車の順位が一致していたことを確認し、順序数を確認する。 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ ミニカーがレーンを走る様子を確認する。 ・色が異なるミニカーを一人一台選択し、実際に走らせる。 ○ ミニカーを走らせてカーレースを行う。 ・自分のレーンを確認し、一人ずつ順番に、ミニカーを走らせる。 ○ カーレースの結果の確認と順位付け ・<u>レーンが横から見える位置に移動し、自分の車の順位を考える。</u> ・<u>順位旗のマグネットを自分のミニカーに貼り、一人ずつ、自分が何番目かを発表する。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 教師が見本を見せたあと、児童に同じように行うよう促す。 ※ 一人1レーン用意し、自分が走らせる車が分かるようにする。 	<div style="background-color: black; color: white; padding: 5px; text-align: center;">ポイント①</div> <ul style="list-style-type: none"> ■ 順位の旗をミニカーに貼り、順位を発表している。 □ 行動観察
	<ul style="list-style-type: none"> ○ ホワイトボードにミニカーと児童の顔写真を貼り付け、順位を確認する。 ○ ミニカーを走らせる順番を変えるなどして、3回程度、繰り返し行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 「一番遠くまで走った車はどれ」、「二番目はどれ」、「自分の車は何番目かな」と児童と対話し、児童が考えられるようにする。 ※ 必要に応じて、レーンの近くへ行き、一番の車から順番にカウントし順位を確認する。 ※ 1～10までの順位について、「〇〇さんのミニカーは〇位」など、教師と一緒に声に出しながら確認する。 	
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ まとめ ・遠くにある車から順番に1となり、10までの数字が続くことを振り返る。 ○ 振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 本時で学習したことを、具体的な場面を通して振り返ることができるようにする。 	

事例11 身の回りの片仮名を探して読む指導

【児童の実態】

小学部第3学年の児童は、絵本や易しい読み物を読むことなどを通して、身の回りにある平仮名や片仮名、漢字などの文字に興味をもち始めている。その一方で、聴覚障がいがあるため、身の回りの音や話し言葉を聞き分けたり、明瞭に発音したりすることが難しいことから、身近なものの名前や発音を誤って覚えていることがある。また、教師の仲介を受けながら、音声、手話、指文字を用いて、教師や児童同士で自分の気持ちや考えを伝えようとする様子が見られる。

【単元の指導計画】

学年：小学部第3学年 単元名：「かたかなを さがそう」 教材：こくご☆☆☆（文科省著作）

単元の目標

- ・日常生活でよく使う、促音や長音などが含まれた片仮名の正しい読み方を知ることができる。【知識及び技能】
- ・言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くことができる。【知識及び技能】
- ・教師と一緒に、片仮名で書かれているものを読んだり、片仮名で表すことができるものを探したりすることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・日常生活の様々な場面においても、片仮名で表記された言葉を見つけて興味を示し、読もうとすることができる。【学びに向かう力、人間性等】

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 日常生活でよく使う、促音や長音などが含まれた片仮名を正しく読んでいる。 ② 語句を、場面や用途などのまとまりで捉えようとしている。	① 「読むこと」において、片仮名で書かれている言葉を読んで、挿絵や身の回りの物の中から探している。 ② 「読むこと」において、片仮名で表記することができるものを、挿絵や身の回りの物の中から探している。	① 学校や家庭の中、校外など、身の回りにある、片仮名で表記されているものを探したり、読んだりしようとしている。

単元の指導計画

時	○主な学習活動	・内容	※指導上の配慮	知	思	態
1	○ 既習事項の確認をする。 ・「かたかなを よもう」の単元で取り扱った、片仮名で表記する言葉について、挿絵や絵カードを見せながら、片仮名を読む。 ※ 促音や長音の読み方などについて、発音サインや指文字を活用して確認する。 ○ 教師の読み聞かせを聞き、片仮名で表記する言葉を確認する。 ○ 単元の学習課題を確認する。	身の回りにある、かたかなの言葉を探そう		①		
2 3 4 5	○ 教科書本文の音読をする。 ・文節ごとに、教師の範読に続けて、児童が音読する。 ※ 話し手に視線を向けて、正しい姿勢で教師の範読を聞いたり、音読したりする。 ※ 音声や手話、指文字などを適切に活用しながら読むようにする。	○ 片仮名で書かれているものが、挿絵のどこにあるのか探す。 ・液晶モニターなどに挿絵を拡大掲示し、文字カードなどを表示させながら、文字と挿絵をマッチングできるようにする。 ○ 挿絵を見ながら、本文にはないが、片仮名で表すことができるものを探す。 ※ 教師と児童、児童同士の話し合いを活発に行いながら取り組むようにする。	ポイント①	① ②	① ②	
6 7	○ 教室や、学校の中にある、片仮名で表記する言葉を読む。 ・給食の献立や学習用具、教室の名称などのカードを見ながら、読み方に慣れる。 ○ 片仮名探しをする。 ・校外にあるものから片仮名探しをしたり、看板の文字を読んだりする。 ※ 他の教科や指導の形態等で使用するものなどにも興味を向けさせる。		ポイント③	① ②	②	①

【一単位時間の指導計画】

本時の目標

- ・教師と一緒に、片仮名で書かれているものを読んだり、片仮名で表すことができるものを探したりすることができる。【思考力、判断力、表現力等】

本時の展開（5／7時間）

	○主な学習活動 ・内容	※指導上の配慮	■評価規準 □評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までの振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・P61で「いえのそと（町の中）」で学習した言葉について確認する。 ○ 学習課題を確認する <ul style="list-style-type: none"> ・P61～62の挿絵を見ながら、「こうえん」について確認することを知らせる。 ・本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> 公園の中にある、かたかなの言葉を探そう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 促音や長音の発音について、発音サインや指文字などを活用して確認しながら、音韻意識の形成につなげる。 ※ 児童が公園で遊んだ経験と、教科書の本文及び挿絵とを結び付けて考えることができるようにする。 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師の範読のあとに続けて、音読する <ul style="list-style-type: none"> ・片仮名で書かれている文字に注目する。 ・正しい姿勢を意識する。 ○ 本文中に片仮名で書かれているものが、挿絵のどこにあるのかを探す。 <ul style="list-style-type: none"> ・文字カードと挿絵のマッチングを行う。 ○ 本文以外に、片仮名で表記できる言葉を、挿絵の中から探す。 <ul style="list-style-type: none"> ・教師や友達と話し合いながら、片仮名で表記できる言葉を探す。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 文節で区切って読む。 ※ 児童の発音を確認し、音韻を意識して読むように意識させる。 ※ 挿絵と文字カードを対応させて、児童同士が活動を共有しながら取り組むことができるようにする。 ※ <u>児童生徒の実態に応じて、音声や指文字、手話などを適切に活用するよう促す。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 片仮名での促音や長音の正しい読み方を意識している。 □ 行動観察 ■ 文字カードと挿絵を照らし合わせて考えている。 □ 行動観察 ■ 教師や友達と話し合いながら課題に取り組んでいる。 □ 行動観察
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・本時に学習した、片仮名で表記できる言葉をまとめる。 ○ 振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・授業の感想を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 公園の中にある片仮名で表記できる言葉について、まとめて示す。 ※ <u>児童の表現を受け止め、文として表現できるよう拡充したり、話し言葉のモデルを示したりする。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ポイント②

ポイント①

ポイント②

事例12 長さの直接比較と間接比較の指導

【児童の実態】

小学部第5学年の児童は、遊びや生活の中で、直観的に長い、重いなどと判断したり、二つのものの長さを比べた際、出っ張った方が長いと判断できたりする。しかし、種々の属性から長さに注目することや長さの相対的な関係を理解すること、比べたものの結果を表現することなどがまだ難しい段階である。算数科の授業では、身近にあるものを題材に、二つの量の大小を比較するなどの実際的な活動を繰り返しながら量を比較する様々な方法についての理解を深めている。

【単元の指導計画】

学年：小学部第5年 単元名：「長さを比べよう」 教材：さんすう☆☆☆（文科省著作）

単元の目標

- ・長さを直接比べる方法について理解し、比較することができる。【知識及び技能】
- ・身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つ分かで大きさを比較することができる。【知識及び技能】
- ・身の回りのものの長さの単位に着目して大小を比較し、表現することができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・数量の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする。【学びに向かう力、人間性等】

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 長さを直接比べる方法について理解し、比較している。 ② 身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つ分かで大きさを比較している。	① 身の回りのものの長さについて、その単位に着目して大小を比較したり、表現したりしている。	① 数量の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習している。

単元の指導計画

時	○主な学習活動	・内容	※指導上の配慮	知	思	態
1 ・ 2 ・ 3	○ 2つのものを直接比較して長さを比べる。 ・花瓶にかざった花や鉛筆など二つのものの長さを比べる際に、片方の端をそろえ、もう片方を見比べて、「〇〇の方が長い／短い」と表現する。 ※ 長さ以外の属性は統一し、児童が長さに注意を向けられるようにする。 ・学校にある形状の異なる様々なもの（牛乳パックとストローなど）の長さを比較する。			①		
4 ・ 5	○ 3つ以上のものを直接比較して長さを比べる。 ・紙の輪かざりなど、たるんでしまうものの長さを比較し、「こっちの方が足りないから短い」「こっちの方が出っ張っているから長い」などと表現する。 ・3つ以上の電車などの長さを比較し、「赤い電車が一番長い」「黄色い電車が一番短い」などと表現する。 ※ 一つの物について「これより長い／短い物を探そう」や、教室の中から長い／短い物を探して「誰の物が一番長い／短いかを競争しよう」などの活動を行い、比較する対象により「長い」にも「短い」にもなることに気付けるようにする。			①		①
6 ・ 7 ・ 8	○ 間接比較して長さを比べる。 ・テーブルの短辺と長辺など、直接比較ができないものを比較する方法を考える。 ・紙テープなど、長さを写し取れるものを活用し、長さを比較する。 ※ 写し取った紙テープなどがどの部分を写し取ったか分かるよう、色分けする。 ○ 任意単位の幾つ分あるかで長さを比べる。 ・直接比較できないものについて、鉛筆や消しゴムなど身近なものを任意単位として、「鉛筆の〇本分」で長さを表したり比較したりする。 ・1cmの目盛り方眼を任意単位として、野菜などの長さを比較したり表したりする。 ※ 目盛りの幅と同じ長さのシールを方眼紙に貼り、目盛り幾つ分かということが視覚的に分かるようにする。			① ②	①	
9 ・ 10	○ 釣った魚の長さを比較する。 ・誰が釣った魚が一番大きいかを競う魚釣り大会を行い、釣った魚の測定方法を考える。 ※ 学習した測定方法を想起できるよう、これまでの学習の様子の写真等を掲示する。				①	①

【一単位時間の指導計画】

本時の目標

- ・魚の大きさについて、長さを測る方法を考え、大きさを表現したり、比較したりすることができる。

【思考力、判断力、表現力】

本時の展開（9 / 10時間）

	○主な学習活動 ・内容	※指導上の配慮	■評価規準 □評価方法
導入	○ 学習内容を確認する。 ・魚釣り大会のルールを説明する。 ①一人3匹ずつ釣って大きさを測り、その中で一番大きな魚を選ぶ。 ②クラス全員の魚の中から一番大きな魚を決める。 ○ 学習課題を確認する。	※ 魚の大きさについて、魚のどこからどこまでを測るかについて、具体物を用いて確認する。	
	クラス全員の中で一番大きな魚を決めるためには、どんな測り方をすればよいだろう。		
	○ 学習課題に対する見通しをもつ。 ・これまで学習した比較方法（直接比較、間接比較、任意単位による比較）を確認する。 ・魚の大きさを測り、一番大きな魚を決めるためには、どの方法がよいかを考える。	※ これまでに比較してきたものや測る方法を想起できるように具体物や活動の様子の写真等で示す。 ・直接比較→合わせて測る ・間接比較→紙テープやひもで測る ・任意単位→物が何個分かで測る	
展開	○ 魚釣り大会をする。 ・一人ずつ魚を釣り、自分が釣った魚の大きさを測る。 ・3匹の魚から一番大きな魚を選び、発表する。 ○ クラス全員の中で一番大きな魚を決めるための魚の大きさを測る方法を考える。 ・提示されている、これまで学習した測る方法を参考にしながら考える。 ・ どの方法が良いと思うか、児童一人一人が発表する。 ○ 一番簡単に測ることができるのは任意単位による比較であることを確認する。 ○ 任意単位を用いて魚の大きさを測り、一番大きな魚を決める。 ・任意単位として使うものを決める。 ・一人一人、自分の魚の大きさを測り、「○○が□個分」と魚の大きさを表現し、他の児童の魚の大きさと比べる。	※ 魚の大きさを測る方法については、児童が自分で選ぶように促す。 ※ 比較する魚の数が多いことを伝え、どのような測り方をすれば、より簡単に一番大きな魚を決めることができるか問い掛ける。 ※ 発表の際は、児童の実態に応じて測定方法を示した写真などを活用し、表現できるようにする。 ※ 発表する児童や発表を聞く児童に、国語科の「聞くこと・話すこと」における「自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えを受け止めたりすること」の学習を想起させる。	■ どの測り方が良いかを考え、発表している。 □ 行動観察 ■ 任意単位を用いて自分の魚の大きさを表現し、他の児童の魚の大きさと比べている。
終末	○ まとめ ・測るものや場面によって、測る方法が違うことを説明する。 ○ 振り返り ・魚の大きさを測って比べた感想を発表する。	※ 簡単に、早く、正確に測る方法に児童が気付けるようにする。 ※ 魚の大きさを測ったり表現できたりしていたことを称賛する。	□ 行動観察

ポイント③

事例13 言葉と情景や場面のイメージを結び付けた指導

【生徒の実態】

中学部第1学年の生徒は、読み物などを読み、挿絵を手掛かりに登場人物の行動や場面を想像することなどができるようになってきているが、挿絵が少ない文章が中心の物語や詩などについては、登場人物の行動や心情の変化を把握し、その様子を豊かに想像しながら読むことが難しい段階である。生徒は、生活の広がりに伴う事物や人との関わりの中で、言葉で様々な情報を得たり、人の思いや考えに触れたりする経験や、自分の思いや考えをまとめたり相手に分かりやすく伝えたりする経験を積み重ねている。

【単元の指導計画】

学年：中学部第1学年 単元名：「詩」 教材：国語☆☆☆☆（文科省著作）

単元の目標

- ・自然や季節の言葉を取り入れた詩などを聞いて、言葉の響きやリズムに親しむことができる。【知識及び技能】
- ・簡単な文や文章を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像することができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・言葉がもつよさに気付くとともに、図書に親しみ、国語で考えたり伝え合ったりすることができる。【学びに向かう力、人間性等】

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 自然や季節の言葉を取り入れた詩などを聞いて、言葉の響きやリズムに親しんでいる。	① 「読むこと」において、簡単な文章を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像している。	① 詩を読むことに粘り強く取り組んだり、学習課題に沿って情景を理解し表現したりしながら、言葉を使おうとする。

単元の指導計画

時	○主な学習活動 ・内容 ※指導上の配慮	知	思	主
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な文章の形式を知る。 ・ 文章には、「感想文」、「物語」、「ことわざ」、「俳句」、「なぞなぞ」、「歌詞」等、様々な種類があることを確認する。 ○ 単元の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">好きな詩を選んで、音読会をしよう</div> <p>※ 本単元では、詩を読むこと、そして最終的には、自分の好きな詩を選び発表することを説明する。</p>			①
2 ・ 3 ・ 4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登場人物や言葉の意味を確認する。 ・ 教師の音読を聞き、どのような印象をもったかを確認する。 ※ 擬声語や擬態語の言葉の響きやリズムに親しめるように音読する。 ・ 登場人物や文言等の意味の確認をする。 ※ <u>インターネットで言葉を検索し、春の情景等の画像を見ることで詩の表す情景をイメージできるようにする。</u> <div style="text-align: right; background-color: black; color: white; padding: 2px 10px;">ポイント①</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 詩の表す情景や場面の様子、登場人物の心情を想像する。 ・ 詩の表す情景を考える。 <div style="text-align: right; background-color: black; color: white; padding: 2px 10px;">ポイント①</div> <ul style="list-style-type: none"> ※ <u>生活単元学習での「春を探そう」の学習と関連させ、春の情景を想起させる。</u> ・ かえるの気持ちや、「ケルルン、クック」に込められた思いを想像する。 ※ <u>教科書に描かれている情景やかえるの挿絵を参照し、かえるの心情を想像させる。</u> <ul style="list-style-type: none"> ○ 詩に描かれた情景や登場人物の心情を想像しながら音読する。 ・ 音読をする際に特に気を付けたい箇所をワークシートに記入する。 ・ 情景やかえるの気持ちを考え、音読で表現する。 	①	①	
5 ・ 6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分のお気に入りの詩を探す。 ・ 図書室やインターネット等で「季節」に関する詩を検索し、お気に入りの詩を選ぶ。 ・ 自分の選んだ詩の情景を考える。 ○ <u>詩の音読会を行う。</u> ・ <u>選んだ詩の情景を思い浮かべ、音読する。</u> ・ <u>選んだ詩の気に入った点を発表する。</u> <div style="text-align: right; background-color: black; color: white; padding: 2px 10px;">ポイント③</div>		①	①

【一単位時間の指導計画】

本時の目標

- ・ 詩の表す情景や場面、かえるの心情などを想像しながら、音読することができる。【思考力、判断力、表現力等】

本時の展開（4 / 6 時間）

	○主な学習活動 ・ 内容	※指導上の配慮	■評価規準 □評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習課題を確認する。 ・ 本時の学習内容を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 詩に描かれた情景や登場人物の心情を想像しながら音読をしよう。 </div>		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見通しをもつ。 ・ 前時まで確認した、詩の情景や登場人物であるかえるの心情を思い出す。 ※春のイメージ →穏やか、ポカポカ、心地良い季節 ※かえるの心情 →冬眠から覚めてようやく土の中から出てくることができ嬉しい 	※ インターネットで検索した画像や教科書の挿絵などを見せて、詩の情景などを具体的にイメージできるようにする。	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音読する際のポイントを確認する。 ・ どのようなことに気を付けながら音読するか、前時に作成したワークシートを元に振り返り、確認する。 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ◆季節は春 → うきうき ◆かえるの気持ち → うれしい ◆かえるの表情 → 楽しい など </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特に気を付けて読みたい場面を選択し、音読の練習をする。 	※ <u>自分が「うきうきした気分」「うれしい気持ち」になった場面を想像させ、どのように音読したら気持ちを表現できるかを考えさせる。</u> ※ 教師が様々な読み方で音読し、それぞれどのような印象をもったかを確認することで、音読の工夫についてイメージできるようにする。	ポイント①
	<ul style="list-style-type: none"> ○ ペアの友達と、互いに詩の音読をする。 ・ <u>ペアの友達の音読を聞き、良かった点を伝え合う。</u> ・ 友達の音読や感想を聞き、工夫したい点を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 情景やかえるの気持ちを想像しながら、全員の前で音読する。 ・ 生徒一人ずつ音読する。 ・ 音読の際に表現を工夫した点について発表する。 	※ <u>ペアの友達の音読の際には、良いと思った表現、自分とは違う表現などに注意して聞くように伝える。</u> ※ 教師が机間巡視しながら、良かった点や工夫できる点を伝える。	ポイント②
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ まとめ ・ 本時の学習内容を振り返る。 ・ 次時からは、図書室から自分の好きな詩を選び、音読の発表をすることを知らせる。 ○ 振り返り 	※ 本時の音読で、各生徒が表現で工夫した点などを取り上げ、称賛し、振り返ることができるようにする。 ※ 違う作品でも、今回のように表現の工夫をしながら音読することを伝える。	■ 詩の情景や登場人物等の心情が分かり、音読している。 □ 行動観察

事例14 予想と確かめにより量感を身に付ける指導

【生徒の実態】

中学部第1学年の学級は、重度のアレルギー疾患のある生徒が1名おり、アレルギー物質に触れることによって、皮膚のかぶれやかゆみ、痛み、発疹といった、アレルギー症状が現れてしまうため、日常的に配慮を必要としている。数学科では、買い物等の日常生活の中で「重い、軽い」といった表現ができ、「はかり」を見ながら「g」や「kg」などの言葉を耳にしているが、目盛りを読むことは難しい状態である。

【単元の指導計画】

学年：中学部第1学年 単元名：「色々な物の重さを比べよう」 教材：数学☆☆☆☆（文科省著作）

単元の目標

- ・重さの単位が分かり、はかりで正しく測定できる。【知識及び技能】
- ・素材や大きさなどから身近なものの重さを予想し、適切な単位で表すことができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・身の回りのものの重さに関心を持ち、進んで重さを比べたり測定したりしようとする。【学びに向かう力、人間性等】

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① グラムやキログラムといった重さの単位を理解し、はかりを用いて正しく測定している。	① 素材や大きさなどから、おおよその重さの見当を付けている。 ② 単位を付けて量の大きさを表している。	① 重さを測定することに興味を持ち、進んで物の重さを調べようとしている。

単元の指導計画

時	○主な学習活動 ・内容 ※指導上の配慮	知	思	態
1 ・ 2	○ 身の回りの物の重さの比べ方を考える。 ・いくつかの身近な物について、見た目で見当を予想したり、手に持って重さを感じたりしながら重さの順に並べる。 ※ 身体計測や背の順に並ぶことなどを例示し、基準を基に並べることに気付かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">重さを正確に量るにはどうしたら良いのだろう。</div>			①
3 ・ 4 ・ 5 ・ 6	○ 重さを表す単位「グラム（g）」について理解する。 ・一円玉と天秤を使って、色々なものの重さを測る。 ・1円玉が1gであることを使って重さを数値化したり、重さを比較したりする。 ○ 秤量1kgのはかりの目盛りの読み方を知る。 ・秤量1kgのはかりを使って測定する。 ・100gや500g等、指定された重さのものを探す。 ○ 重さを表す単位「キログラム（kg）」と、1kg=1000gの関係について理解する。 ※ 1円硬貨1000枚を用意し、実際に持って比べたり、はかりで量ったりしながら同じ重さであることを確認する。 ・秤量2kg、4kgのはかりを使って測定する。 ・1kg、2kg等、指定された重さのものを探す。 ※ 学習の展開を可能な限り同じにすることにより、活動の見通しをもちやすくする。	①	②	
7	○ 身の回りのものの重さの見当を付けてから測定する。 ・身の回りのものについて、大まかな重さを予想し、色々なものの重さを量る中で量感をつかむ。 ※ 基準となるおもりを準備し、比較しながら予想できるようにする。 ※ 誤差を実感させることにより量感を獲得できるように、まずは予想をワークシートに記入し、その後測定する。			① ①
8	○ 生活の中にある重さについて考える。 ・作業製品を作る際の分量や郵便、宅配便の料金など、身近な生活の中で重さを活用していることを確認する。 ※ 家庭科や作業学習と関連させ、学んだことを発揮できるようにする。	①		①

ポイント③

【一単位時間の指導計画】

本時の目標

- ・ 1 kgのおもりを基準にして身近なものの重さを大まかに予測することができる。【思考力、判断力、表現力等】

本時の展開（7 / 8 時間）

	○主な学習活動 ・内容	※指導上の配慮	■評価規準 □評価方法
導入	<p>○ 前時までの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 重さを表す単位について学び、はかりで色々なものを測定しながら、重さの感覚を理解してきたことを確認する。 <p>○ 学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <p>いろいろなものの重さを予測しよう</p> </div> <p>○ 予想を立ててから測定することと、測定する対象や大きさに応じたはかりを使用することを確認する。</p>	<p>※ 4kgのはかりで100gのものを測定したり、1kg測れるはかりで2kgのものを測定したりして、適切なはかりを用いることの有用性を確認する。</p>	
展開	<p>○ 指定された測定物の重さを調べよう。 【レンガ、木材、辞典、果物、鉄球】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1kgの分銅を手掛かりにして、手に持った感覚で重さを予測する。 → 1kgぐらい、1kgと2kgの間、3kg以上など、大まかな予想を立てる。 → 繰り返して感覚をつかんできた生徒は、100g単位での予想をする。 ・ 見積もった重さをワークシートに単位を付けて記入する。 <p>・ 複数のはかりの中から適当なものを選び重さを測定して確かめる。</p> <p>・ 適切な単位を用いてワークシートに記入する。</p>	<p>※ <u>生徒Bは、金属アレルギーへの配慮として、ゴム手袋を着用しながら測定を行い、アレルギー物質に直接触れないようにする。</u></p> <p>※ おおよその重さを記入できるような500g刻みの数直線で示したワークシートを用意し、そこを基準に記入するようにする。</p> <p>※ <u>重さを見積もることが難しい生徒は、必要に応じて手作り天秤を活用し、傾きの大きさから重さを予想できるようにする。</u></p> <p>※ 秤量の異なるはかりを3種類（1kg、2kg、4kg）用意し、測定物の重さに合わせて選べるようにする。</p> <p>※ 自分の予想と実際の重さの違いに着目させる。</p>	<p>ポイント②</p> <p>■ 基準となるおもりと比べながら、おおよその重さの見当を付けている。</p> <p>□ 行動観察</p> <p>ポイント①</p> <p>■ 予想した重さに応じて、適切なはかりを選択している。</p> <p>□ 行動観察</p>
終末	<p>○ まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の予想がどれだけ当たったかを確かめる。 <p>○ 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習で分かったことや感想を発表する。 	<p>※ 素材の違いや見た目と実際の重さのずれに気づいているかどうかを、生徒の発言やワークシートの記載から確認する。</p>	

事例15 伝えたい内容を選び、情報を整理して表現する指導

【生徒の実態】

中学部第3学年の生徒はこれまでに、学校に届いた手紙やはがきなどを読んだり、日記を書いたりする学習に取り組んでおり、本単元において手紙を書くことへの興味関心は高い。その一方で、日記を書く学習では、一人で書く内容を考えることが難しいほか、聴覚障がいに伴う言語発達の遅れもあり、思いや考えを文にして表現することが難しい様子が見られた。学校生活の様々な場面で、身近な出来事などを話題に、教師や生徒同士で、音声、手話、指文字など多様な方法を活用しながら、活発に話し合い活動に取り組んでいる。

【単元の指導計画】

学年：中学部第3学年 単元名：「お礼の手紙を書こう」 教材：国語☆☆☆☆☆（文科省著作）

単元の目標

- ・敬体と常体があることを理解し、その違いに注意しながら書くことができる。【知識及び技能】
- ・漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことができる。【知識及び技能】
- ・相手を意識して、見聞きしたことや経験したことの中から書く内容を選び、伝えたいことを明確にすることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・手紙に書く内容や文章を推敲するなどして、相手に知らせたい内容やお礼の気持ちをより良く伝えようとすることができる。【学びに向かう力、人間性等】

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 敬体と常体の違いが分かり、相手や目的に応じて、文末表現に気を付けて文を書いている。 ② 文字の大きさや文字列を意識して、文字の大きさを整えて文章を書いている。	① 「書くこと」において、自分が見聞きしたことや経験したことの中から相手に伝えたいことを選んでいいる。 ② 「書くこと」において、伝えたい内容を明確にして書いている。	① 知らせたい内容や自分の気持ちなどが伝わるように、文章を工夫している。 ② 手紙やはがきといった通信文を書くよさに気付いている。

単元の指導計画

時	○主な学習活動	・内容	※指導上の配慮	知	思	態
1 ・ 2	○ 社会見学に行ったときの様子を振り返る。 ・ 見学をとおして学んだことを振り返る。 ※ 写真などを見ながら、見学の時の様子を想起できるようにする。 ○ 単元の学習課題を確認する。					
		感謝の気持ちをお礼の手紙にまとめよう。			①	
3 ・ 4 ・ 5 ・ 6	○ 教科書本文を確認し、お礼の手紙の文章構成について確認する。 ・ はじめのあいさつ、本文、結びのあいさつなど、手紙に書く順番や決まりを知る。 ○ 「感謝の気持ち」、「分かったことや気付いたこと」として書く内容について考える。 ※ <u>書きたい内容について、教師と生徒、生徒同士で、音声や指文字、手話などを適切に活用して話し合うとともに、話し合った内容を適切な言葉で表現するようにする。</u> ○ 手紙の下書きを書いたり、清書したりする。 ・ 文字の大きさを整えて書くようにする。 ・ 間違えているところがないか確認する。 ※ 手書き文章のほか、PCやタブレットの文書作成ソフトの活用も検討する。			① ②	① ②	①
		ポイント①②				
7	○ 実際に相手に送る封筒に、宛先を書く。 ・ 自分や相手の学校の名称や住所、郵便番号について調べて書くようにする。 ※ 文字の大きさを揃えて宛名を書くようにする。			① ②		
8 ・ 9	○ 実際に郵便局で切手を買ったり、ポストに手紙を投函したりする。 ○ 学校生活や家庭生活の中で、手紙やはがきを書く機会について考える。 ※ <u>他の教科や指導形態における取組の充実につなげるようにする。</u>					②
		ポイント③				

【一単位時間の指導計画】

本時の目標

- 書く内容を選ぶことにより、相手に伝えたいことを明確にして文章の構成を考えることができる。
【思考力、判断力、表現力等】

本時の展開（5 / 9 時間）

	○主な学習活動 ・内容	※指導上の配慮	■評価規準 □評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> • 自分が考えた「はじめのあいさつ」や「お別れのあいさつ」の例を振り返る。 ○ 本時の学習課題を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> • 教科書本文の P111 の文例を見ながら、本時の活動について見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> お礼の手紙で伝えたいことを考えよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ※ 実物投影機や大型提示装置などを活用し、話題を共有しながらお互いに確認し合う。 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「感謝の気持ち」、「分かったことや気付いたこと」として書く内容を想起する。 <ul style="list-style-type: none"> • 手掛かりとなる資料をもとに、書きたい内容について考える。 • 社会見学の時の様子を振り返る。 ○ お礼の手紙に書きたい内容を選び、文章の構成を考える。 <ul style="list-style-type: none"> • 話し合いを通して確認した内容の中から、書きたい内容を選ぶ。 • 選んだ内容を基に文章の構成を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 社会見学の時の体験を振り返ることができるようにする。 ※ <u>生徒の実態に応じて、音声や指文字、手話等を適切に活用しながら、活発な話し合いを行うようにする。</u> <div style="text-align: center; background-color: black; color: white; padding: 5px; margin: 10px 0;"> ポイント① </div> <ul style="list-style-type: none"> ※ <u>話し合った内容について、適切な言葉で表現させるとともに、板書し、文字情報として残すようにする。</u> <div style="text-align: center; background-color: black; color: white; padding: 5px; margin: 10px 0;"> ポイント② </div> <ul style="list-style-type: none"> ※ 板書を手掛かりにして、書きたい内容を選択したり、文章表現を確認したりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 話し合いを通して、書きたい内容を想起している。 □ 行動観察 <ul style="list-style-type: none"> ■ 自分の伝えたい内容を選択している。 □ ワークシートの記述、話し合いの様子
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ まとめ <ul style="list-style-type: none"> • 本時の学習内容をまとめる。 ○ 振り返り <ul style="list-style-type: none"> • 伝えたい内容を表す事ができているか振り返る。 ○ 次時への見通しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> • 文章の下書きを行うことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 学習を通して工夫したことや難しかったこと、よくできたと思うことなどについて交流する。 ※ 次時への期待感をもたせる。 	

事例16 ゲームを通して計算に親しみをもつ指導

【生徒の実態】

中学部第2学年の生徒は、2位数の加法及び減法を扱う実際の場面から計算の意味を理解し、2位数の加法及び減法の計算の仕方を考え、筆算することができるが、3位数の加法及び減法において十や百を単位とした位に着目して計算方法を考えたり、筆算に表したりすることがまだ難しい段階である。生徒は、具体物などを用いることを通して数学の学習に関心を持ち、基礎的・基本的な概念や性質を理解するとともに、日常生活の事象を数学的に捉え、表現したり処理したりする学習に取り組んでいる。

【単元の指導計画】

学年：中学部第2年 単元名：「3けたの数の計算」 教材：数学☆☆☆☆☆（文科省著作）

単元の目標

- ・3位数の加法及び減法の計算の仕方について理解し、計算ができること。また、それらの筆算についての仕方を知ることができる。【知識及び技能】
- ・数量の関係に着目し、数の適用範囲を広げ、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすとともに、日常生活で生かすことができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・数量に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさを理解し、そのことを生活や学習に活用しようとする。【学びに向かう力、人間性等】

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 3位数の加法及び減法の計算の仕方について理解し、計算ができること。また、それらの筆算についての仕方を知ろうとしている。	① 数量の関係に着目し、数の適用範囲を広げ、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすとともに、日常生活で生かそうとしている。	① 数量に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさを理解し、そのことを生活や学習に活用しようとしている。

単元の指導計画

時	○主な学習活動	・内容	※指導上の配慮	知	思	態
1 ・ 2	○ 2位数の計算（繰り上がりと繰り下がり）の筆算を振り返る。 ・ 以前学習した際のノートやワークシート等を確認して、学習の成果を振り返る。 ※ 2位数の学習を行った際の教材等を提示し、生徒が想起しやすいように工夫する。					①
3 ・ 4	○ 日常生活で使用する身近な商品の大体の金額を予想する。 ※ 既習の2位数の計算から3位数へ学習が進展したことを意識できるよう、3桁の金額で購入できる商品について、具体物や画像を用いながら提示する。 ※ 買い物の場面や、作業学習での計量場面などを想起させ、加法の必要性を伝える。	○ 「3けたのたし算」の内容について確認する。（教科書p26～29） ・ □に当てはまる数字を記入したり、「やってみよう」の計算をしたりする。 ※ 具体物、図、言葉、数、式、表、グラフなどを用いて考えたり、説明したり、互いに自分の考えを表現し、伝え合ったりする ※ 教科書を見ながら、具体物を並べたり、シールを貼って視覚的に確認できるようにしたりできる教材を用意する。 ※ 既習の2位数の繰り上がりの計算や、3位数の簡単な計算、九九について振り返る。 ※ 十や百を単位とした位に着目して計算するなど、計算のしやすさの工夫を伝える。 ※ 繰り上がりの計算を振り返る際に、具体物で10のまとまりを作ったりしながら確認する。		①	①	
5 ・ 6	○ 「3けたのひき算」の内容について確認する。（教科書p30～33） ※ 第二次の加法の学習と同様に、減法の学習においても配慮する。			①		
7 ・ 8 ・ 9 ・ 10	○ 順番を決めてボウリングゲーム（カウントアップ）の練習をする。 ・ 倒したピンの合計得点を求めた後、得点を合わせて計算する（加法）。 ※ 得点を計算するために、筆算ができる枠を設けた「得点シート」を配付する。 ※ 集計用紙を準備し、他のメンバーの得点や計算方法が一覧で分かるようにする。 ○ 順番を決めてボウリングゲーム（カウントダウン）をする。 ・ 500点から得点を引いて計算する（減法）		ポイント①			①
	○ 関連を図る学習 ・ 生活単元学習「買い物へ行こう」	・ 宿泊行事（金銭出納帳の記入）	ポイント③			

【一単位時間の指導計画】

本時の目標

- ・得点を計算するための式を考え、合計得点を求めることができる。【思考力、判断力、表現力等】

本時の展開（8 / 10時間）

	○主な学習活動 ・内容	※指導上の配慮	■評価規準 □評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までの振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・ノートやワークシートを確認し、3桁の計算を振り返る。 ○ 本時の進め方の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・本時の内容や学習の流れに見通しをもつ。 ○ 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ボウリングをして、得点を正しく求めよう</div> ○ 道具の準備 <ul style="list-style-type: none"> ・ボウリングゲームに必要な道具を準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 合計得点を計算する際は、これまで学習した計算を思い出し、自分が計算しやすい方法を考えて取り組むことを伝える。 ※ 具体物や画像等を活用し、生徒がボウリングゲームのルールや順番を確認できるようにする。 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ ボウリングゲーム <ul style="list-style-type: none"> ・ボウリングのピンを10本用意し並べる。 ・ピンの色によって得点が異なることを理解する。（50点、40点、30点） ・倒したピンの得点を求める式を考える。（乗算後に加算、100のまとまりを作ってから加算、1つずつ加算など） ・考えた式を基に合計得点を計算する。 ○ 得点を集計する <ul style="list-style-type: none"> ・<u>自分が行った計算方法について、考え方を一人ずつ発表する。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 掛け算の九九表を掲示し、自由に確認して良いことを伝える。 ※ 具体物やシールを操作しながら、十進位取り記数法の特徴に注目できるようにする。 ※ 得点シートに筆算ができる枠を設ける。 ※ 筆算する際に、位をそろえるためのマス目を作ったり、その枠線の色を変えたりした得点シートを活用する。 ※ 計算方法、工夫点などをうまく表現できない生徒には、説明を補足し、当該生徒やその他の生徒が理解できるようにする。 ※ 集計表を準備し、参加者の点数が一覧で分かるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ■得点を計算するための式を考え、合計得点を求めている。 □得点シートの記入の状況 ■得点を計算するための式の工夫点を表現している。 □行動観察
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動の振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・得点を正しく求めることができたか確認する。 ・日常生活において、3位数の計算を生かせる場面を想起し、学習成果を確認する。 ・次回へ向けての意気込みを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 計算した結果を確かめる際、得点シートの注目すべき箇所にマーカーで印を付ける。 ※ 得点を正しく求めることができたことを称賛する。 	

ポイント②

事例17 自分の考えをまとめ、相手に伝える力を高める指導

【生徒の実態】

高等部1学年の生徒は、自分の興味や関心に応じて伝えたいことを決め、書くために必要な事柄を整理することや、文章には内容のまとまりごとに構成があることを理解できるようになってきているが、何のために書くのかといった相手や目的を意識することや、伝えたいことが明確になるように書く材料を整理し、中心となる事柄を基に文章を構成することはまだ難しい段階である。生徒は、生活の広がりに伴う事物や人との関わりの中で、伝える目的や内容を明確にしたり、伝え方を工夫したりすることを体験的に学んでいる。

【単元の指導計画】

学年：高等部第1年 単元名：「自分史」 教材：「くらしに役立つ国語」、原稿用紙

単元の目標

- ・漢字と仮名を用いた表記や送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点の使い方を意識することができる。【知識及び技能】
- ・相手や目的を意識して、書くことを決め、集めた材料を比較するなど、伝えたいことを明確にする。【思考力、判断力、表現力等】
- ・書く内容の中心を決め、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。【思考力、判断力、表現力等】
- ・言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語を大切にその能力の向上を図る。【学びに向かう力、人間性等】

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 漢字と仮名を用いた表記や送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点の使い方を意識している。	① 「書くこと」において、相手や目的を意識して、書くことを決め、集めた材料を比較するなど、伝えたいことを明確にしている。 ② 「書くこと」において、書く内容の中心を決め、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。	① 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語を大切にしている。

単元の指導計画

時	○主な学習活動	・内容	※指導上の配慮	知	思	態
1 ・ 2	○ 「自分史」を読む。 ・ 教師が作成した「自分史」を読み、感想をグループで交流する ○ 単元計画や目標を図や表で示す。 ※ 単元について見通しをもち、目的を理解できるようにする。 ○ 単元の学習課題を確認する。 ・ 「自分史」を作成し、自己紹介に使うことや、今後の現場実習など、様々な場面で自己PR等に使えることを示し、生徒が作成した「自分史」の使い方をイメージできるようにする。				①	
	自分のことを理解してもらうために「自分史」を書こう					
3 ・ 4	○ 「自分史」で読み手に最も伝えたいこと（テーマ）を決める。 ・ プロフィールシートを作成する。 ※ プロフィールシートの作成に必要な材料について、家庭と連携したり、調べ学習をしたりすることにより、主体的に情報を集め、想起できるようにする。				①	
5 ・ ⑥ ・ 7	○ 「自分史」を書く。 ・ 年代ごとのプロフィールシートを一つの段落として文章を書くこととし、プロフィールシートの内容を文章に書き換える。 ※ 漢字や句読点の使い方、主述や文章の構成についての見本を示す。 ※ 自分が最も伝えたいことを中心に文章を構成し、最も伝えたいことを確認できるように提示する。 ※ 中学部までの「書くこと」の指導や、「聞くこと・話すこと」の指導と関連を図り、文章の構成について学習した内容を想起させる。			①	②	
8 ・ 9	○ 「自分史」を冊子にし、友達に伝えるために工夫した点を紹介する。 ・ 友達の書いた「自分史」を読み合い、感想を伝え合う。 ・ 「自分史」を今後どのように使用できるのかを確認する。 ・ 現場実習や卒業後など自己紹介などの場面での使い方を例示する。					①

【一単位時間の指導計画】

本時の目標

- ・プロフィールシートから「自分史」に記載する内容を決めることができる。【思考力、判断力、表現力等】

本時の展開（6 / 9 時間）

	○主な学習活動 ・ 内容	※指導上の配慮	■評価規準 □評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までの振り返り ・前時までに作成したプロフィールシートをもとに、「自分史」をどのように作成するのかを板書で説明する。 ・単元計画を確認し、「自分史」を作成する理由と今後の流れを確認する。 ○ 本時の説明 ・プロフィールシートの内容を、文章に書き換えてつなぎ、物語にするまでの過程を示す。 ・本時の学習課題を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 作成の見通しがもてるよう、単元計画を参照しながら説明する。 ※ 今後、現場実習などの機会に、自己紹介をする際に活用することを確認する。 	
伝えたい内容を明確にするためにはどうしたらよいだろうか			
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ プロフィールシートから作成する内容を決定する。 ・これまでの学習で決めている伝えたいテーマに沿って、小学部時代、中学部時代など、それぞれの時代の出来事を比較しながら、「書く」内容を決定する。 ○ <u>物語の中心となるテーマと、プロフィールシートから選んだ「書く」内容を一人ずつ発表する。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 伝えたい内容が明確になっていることが確認できるよう、参考となる書籍や、教師が作成した見本を提示する。 ※ 物語の中心を視覚的に示す。 ※ これまでのエピソードの中で、伝えたいテーマと最も近い内容がどこに当たるのかを考えられるよう問い掛ける。 ※ <u>発表を聞いて、友達や教師が感想を伝える場面を設定する。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ■プロフィールシートの内容から最も伝えたい内容を考えている。 □行動観察
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の振り返り ・自分が伝えたい文章を書くためには、準備した材料を比較しながら、内容を整理することが大切であることを振り返る。 ○ 次時に向けて ・本時で選んだ内容をもとに、文章を作成することを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 単元の始めに示した単元計画を活用し、今後の流れを確認する。 	<div style="background-color: black; color: white; padding: 5px; display: inline-block;">ポイント②</div>

事例18 データを活用し問題解決を図る指導

【生徒の実態】

高等部第1学年の生徒は、棒グラフや折れ線グラフ等の複数のグラフについて学習しているが、目的に応じて二つのグラフを使い分けることは難しい状況である。

また、脳性まひ（痙直型）を併せ有する生徒が1名在籍しており、右手に痙性が見られることから、道具を操作する学習では、補助具やICT機器の活用など指導の効果を高めるための工夫が必要である。

大半の生徒が体育や作業学習への意欲は高いものの、国語や数学等の座学への意欲が低い状況である。

【単元の指導計画】

学年：高等部第1学年 単元名：「色々なデータを整理し、グラフにまとめて発表しよう」

教材：製品販売会の売上一覧、表計算ソフト、ワークシート

単元の目標

- ・グラフの特徴や使い方が分かり、グラフで表したり読み取ったりすることができる。【知識及び技能】
- ・データの特徴を捉え、目的に応じたグラフを選択できる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・グラフの特徴や傾向を読み取り、考えたことを表現できる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・グラフを用いることの良さに気づき、生活や学習の問題解決に活用することができる。【学びに向かう力、人間性等】

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① データを整理し、円グラフや帯グラフで表したり、読み取ったりすることができる。 ② グラフの特徴や使い方を理解している。	① 目的に応じてグラフを選択している。 ② グラフの特徴や傾向を捉えて考えたことを表現したり、複数のグラフを比較して、相違点を考えたりしている。	① 見近な問題解決を図るために、グラフで表したり、グラフから読み取ったことを活用したりしようとしている。

単元の指導計画

時	○主な学習活動	・内容	※指導上の配慮	知	思	態
1 ・ 2	○ 既習事項を確認し、日常生活にあるグラフの種類や特徴について知る。 ※ ニュースや新聞などで使われているグラフを提示しながら、既習事項を振り返ったり、グラフの種類や活用の目的について発問したりして、単元の学習に目的をもてるようにする。 ○ 学習課題を確認する。			①		①
	データを用いて問題解決を図る方法を学ぼう					
3 ・ 4	○ 目的に応じたグラフを選択する。 ・割合を表すグラフの示し方を学び、各グラフの特徴を考える。 ・円グラフと帯グラフを作成する。	○ 製品販売会の売り上げデータとアンケートをグラフに表す。 ・データを整理し、特徴や傾向から目的に合ったグラフを作成する。 ・作成したグラフから、売れ行きの傾向やお客さんのニーズを分析する。 ※ まひのある生徒は上肢の不自由によりキーボード操作が難しいため、タブレット端末で入力を行うとともに、アクセシビリティ機能を活用する。		①	②	
5	○ 製品販売会の集計結果を、作業学習の担当教諭や実習助手、他学科の生徒に向けて発表し、見出したことやグラフにまとめる過程で分かったことを表現する。 ※ 他のホームルームの発表と自分たちのまとめ方との違いを比較させるために、ワークシートを活用する。 ※ データの分析から得られた結果を、作業学習で活かせるよう単元配列を工夫する。			②	①	
6 ・ 7 ・ 8	○ 身近な生活において調べたいことを一つ決め、これまでの学習を使ってデータを収集し、グラフに表して分析する。 ※ 学年や月ごとなど、多様な観点で分析するよう促す。				②	①

ポイント③

【一単位時間の指導計画】

本時の目標

- データの傾向や特徴から、表したい内容に応じて適切なグラフを選択することができる。

【思考力、判断力、表現力等】

本時の展開（3 / 8 時間）

	○主な学習活動 ・内容	※指導上の配慮	■評価規準 □評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までの学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・データの特徴や傾向に応じて、用いるグラフが異なることを確認する。 ○ 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 製品販売会の売り上げを分析するためにはどのようなグラフで表すとよいのだろうか。 </div> 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 視覚的に特徴を捉えることができるよう、グラフの例を示す。 ※ 傾向を漠然と捉えるのではなく、グラフを活用することにより、客観的に課題を捉えることができることを確認する。 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ どのような観点でデータを集めるかを個人で検討し、ワークシートに記入する。 ○ 検討結果について、どの観点で整理するかをグループで話し合う。 ○ 観点に基づいてグラフを選定する。 <ul style="list-style-type: none"> ・役割分担を行い、どのグラフを用いて表すかを個人で検討する。 ・各自で表計算ソフトを用い、テンプレートから選択しながらグラフを作成する。 ○ 作成したグラフを交流する。 <ul style="list-style-type: none"> ・作成したグラフについて、作成の意図や目的を明確にしながらか発表する。 ・聞き手は、まとめ方の良い点や感じたことを発表し、意見交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 過去の売上との比較、売れた製品、全体における売れていない製品の割合、購入したお客さんの年齢や性別等に注目させる。 ※ <u>黒板に、棒グラフや折れ線グラフなど、これまで学んだグラフの例と特徴を掲示し、目的に応じてグラフを選択できるようにする。</u> ※ <u>右手にまひのある生徒Bについては、タブレット端末のアクセシビリティ機能である「触覚タッチ」を活用し、タッチパネルの感度によって入力できるようにする。また、操作しやすいように角度を調整してスタンドに固定する。</u> ※ 作成したグラフをクラウド上で共有し、説明している箇所を拡大して表示したりマーカーで示すことにより注目しやすくしたりする。 ※ 多様な意見に着目させ、表したいことによるグラフの違いを比較したり検討したりするよう促す。 	<p>ポイント①</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 観点を明確にし、どのグラフを用いるとよいかを考えている。 □ 行動観察 <p>ポイント②</p>
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じてグラフを選択することにより、データの特徴を捉えたり、表したいことが表現できることを確認したりする。 ・次回は、作成したグラフを用いて、データの分析を行うことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 他者のよい点を認めていたことや表したい内容に応じて適切なグラフを考えていたことを称賛する。 	

事例19 話し合いを通して表現する力を高める指導

【生徒の実態】

高等部2年生の生徒は、他者へ説明や報告をする際、伝えたい目的を明確にして話すことや、声の大きさや速さに注意するなど表現の工夫ができるようになってきているが、話す目的や意図に応じて伝える内容を検討することや、聞き手の興味・関心や情報量を予想して、補足説明が必要な箇所や言葉だけでは伝わりにくい内容を改善することが難しい段階である。生徒は、生活の広がりに伴う事物や人との関わりの中で、意図や目的を共有して話し合ったり、効果的に伝えるために表現方法を工夫したりすることを体験的に学んでいる。

【単元の指導計画】

学年：高等部第2学年 単元名：「ポップカルチャー研究会」

教材：外務省Webページ「Vol.138 ポップカルチャーで日本の魅力を発信!」、タブレット端末

単元の目標

- ・情報と情報との関係付けの仕方を理解し使うことができる。【知識及び技能】
- ・目的や意図に応じて、話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合う内容を検討することができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 情報と情報との関係付けの仕方を理解し使おうとしている。	① 「聞くこと・話すこと」において、目的や意図に応じて、話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合う内容を検討している。 ② 「聞くこと・話すこと」において、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。	① 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとしている。

単元の指導計画

時	○主な学習活動	・内容	※指導上の配慮	知	思	態
1	○ 日本のポップカルチャーの分野や果たす役割などを知る。 ※ 外務省のWebページや、アニメの動画等を活用して伝える。 ○ 単元の最後に、「第1回ポップカルチャー研究大会」を実施すること、発表までの学習内容や授業時間を知る。 ※ <u>グループに分かれてポップカルチャーについて調べることや、グループ同士で発表練習をすること、ALTを招待することなどを伝え、単元の見通しをもたせる。</u> ○ 単元の学習課題を確認する。					①
		自分の思いや考えが伝わるように表現を工夫することができる				
2 ・ 3	○ 3人1グループになり、学校図書館やインターネットなどを活用し、発表する内容を検討する。 ※ 分類の方法や関連の付け方は、多様であってよいことに気付くことができるようにする。				①	
3 ・ 4 ・ 5 ・ 6	○ 表現の工夫について話し合う。 ・発表する内容に関して集めた材料を整理する。 ・発表する際に使用する資料や説明文を取捨選択する。 ※ ワークシートに、既習事項を踏まえ、話の構成や要点、話し方の工夫などを記入させ、読み上げるための原稿にならないように伝える。 ○ 発表する際に使用する資料の整理や発表練習をする。 ・聞き手の興味・関心や発表時間を考慮し発表内容を工夫する。 ・グループごとに発表練習を行い、資料の提示方法や表現方法を確認する。 ※ <u>自分が説明している様子を記録した映像等を見たり、説明を聞いた仲間からの感想を聞いたりしながら表現の工夫を考えられるようにする。</u>			①	②	
7	○ 「第1回ポップカルチャー研究大会」で研究成果をグループ毎に発表する。 ・ALTなどを招待して発表後に感想をもらう。					①
	○ <u>関連する学習</u> ・見学旅行報告会（発表）	・現場実習報告会（発表）				

【一単位時間の指導計画】

本時の目標

- ・補足説明が必要な箇所や言葉だけでは伝わりにくい内容について、どのような資料を用意すればよいか考えたり、資料の提示の仕方について検討したりすることができる。【思考力、判断力、表現力等】

本時の展開（４／７時間）

	○主な学習活動 ・内容	※指導上の配慮	■評価規準 □評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までを振り返る。 ・前時までに記入したワークシートを確認する。 ○ 本時の進め方を確認する。 ・本時の内容や学習の流れに見通しをもつ。 ○ 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">聞き手にとって分かりやすい伝え方を工夫しよう</div>	<ul style="list-style-type: none"> ※ 各グループで作成したパワーポイントのデータや資料も確認する。 ※ 改めて「第1回ポップカルチャー研究大会」の参加者のプロフィールを紹介する。 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 表現の工夫について確認する。 ・手本となる「プレゼンテーション動画」を見ながら、表現を工夫しているポイントをワークシートに記入する。 ○ グループごとに発表の練習をする。 ・ワークシートに記入したポイントを確認しながら、1グループずつパワーポイントを使用して発表する。 ・ワークシートに記入したポイントを基に、録画した自分たちの発表を確かめる。 ○ 各グループの発表について意見交換する。 ・他のグループの発表で分かりやすかった表現や資料など、良かったところや改善点を発表する。 ○ 他者からの意見をもとに、自分たちの発表資料で修正する箇所を確認する。 ・ワークシートに工夫点を記入し、改善点をグループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 手本の動画を見る際、注目させたいポイントを示す。 ※ 言葉による説明を補助していることや、強調したいときに資料を提示していることに注目させる。 ※ グループ内で感想を伝え合うようにする。 ※ 発表練習の様子をタブレット端末等で録画する。 ※ <u>記録した動画を見る際の視点をあらかじめ提示する。</u> ※ <u>他のグループの発表を見て、良かったことや、他者から聞いた感想を参考にしながら発表の構成を工夫するように伝える。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 理由や根拠を基に資料を提示する量や手段を工夫している。 □ワークシート
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習を振り返る ・他者の意見で参考になった点をグループごとに発表し、互いの工夫点を交流する。 ○ 次時の予定を確認する ・自分たちの発表資料を修正し、再度グループ間で発表し合うことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ よりよい発表にするため、相互評価し、良い点、改善点を伝え合っていた具体的な場面を取り上げ、称賛する。 	

ポイント②

事例20 二つの数量の関係の指導

【生徒の実態】

高等部第3学年の生徒は、二つの数量の関係について、絵図にかき表して考えることやグラフによって確かめることができるようになってきているが、日常生活において、伴って変わる二つの数量の関係を見いだして、それらの関係に着目し、目的に応じて表や式、グラフを用いて変化や対応の特徴を考察することがまだ難しい段階である。数学の授業では、比例の関係を用いると能率よく問題を解決できる場面が日常生活にあり、得られた結果について、現実場面でのどのような意味を持っているかを考える学習に取り組んでいる。

【単元の指導計画】

学年：高等部第2学年 単元名：「比の表し方」 教材：グラフ用紙、定規、ワークシート、電卓など

単元の目標

- ・比の意味や表し方を理解し、数量の関係を比で表したり、等しい比をつくらったりすることができる。【知識及び技能】
- ・日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて数量の関係の比べ方を考察し、それを日常生活に生かすことができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・数量について数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさを実感し、学習したことを生活や学習に活用する。【学びに向かう力、人間性等】

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 比の意味や表し方を理解し、数量の関係を比で表したり、等しい比をつくらったりすることができる。	① 日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて数量の関係の比べ方を考察し、それを日常生活に生かすことができる。	① 量について数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさを実感し、学習したことを生活や学習に活用している。

単元の指導計画

時	○主な学習活動 ・内容 ※指導上の配慮	知	思	態
1 ・ 2 ・ 3	○ 比の意味や表し方を知り、表を使って表す。 ・食品のラベルに書かれている比など、身近な場面について紹介する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">比の表し方や、比を使った数量の比べ方を学ぼう</div> ・2種類の液体を混ぜ合わせた液体を作り、比で表す。 ・一方の液体の量を変えたとき、もう一方の数量がどう変化するか予想して話し合う。 ※ 具体物と数を対応させて、比の意味の理解を促す。 ※ 表を用いて数量の変化の規則性を捉えられるようにする。	①	①	
4 ・ 5	○ 比の値を用いて、比の相等（等しい比）を確かめる。 ・長方形の縦の長さや横の長さに着目し、比の値で表す。 ・複数の長方形の中から同じ形を見付けたり、同じ形の長方形を書いたりする。 ※ 「B 図形」の縮図や拡大図の学習と関連付ける。	①	①	
6 ・ 7 ・ 8	○ 二つの数量の変化について、グラフを用いて表す。 ・比例の学習を基にして、数量の関係を把握したり、見通しをもったりする。	①	①	
	○ 文字を使った式を用いて、知りたい数量を求める。 ※ 文字を使った式を用いると、直接測定できない数量を計算で求められることに気付くことができるようにする。			
	○ 好みの味のドレッシングを作り、調味料の量を比で表す。（家庭科の調理学習と連携） ・調味料の比を変えながら、好みの味のドレッシングのレシピを考える。 ※ <u>日常生活や他教科と関連させて場面を見付けることができるようにする。</u> ○ 自分で考えたレシピを発表する。 ・調味料の種類と量が分かるように、比で表し、発表する。			①

ポイント③

【一単位時間の指導計画】

本時の目標

- ・数量の関係を比で表し、グラフや比の値と関連させて考察して、それらの良さや便利さに気が付くことができる。
【思考力、判断力、表現力等】

本時の展開（4／8時間）

	○主な学習活動 ・内容	※指導上の配慮	■評価規準 □評価方法
導入	<p>○ 本時の学習課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>二つの数量の変化について、グラフや比の値を使って考えましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・Aさん、Bさん、Cさんがアルバイトの給料を貯金しています。Aさんは、時給900円で1日7時間、Bさんは時給950円で6時間、Cさんは、時給1000円で5時間働いています。一番早く10万円を貯められるのは、誰でしょう。 ○ 3人が貯金した日数と金額を比で表す。 ・ワークシートに記入する。 	<p>※ <u>生徒にとって、身近で実際的な学習課題を中心に設定する。</u></p> <p>※ 具体物やイラスト等を使って、学習課題を正確に理解できるようにする。</p>	<p>ポイント①</p>
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3人の貯金した金額の比べ方を考える。 ・3人の貯金した日数と金額を表に表す。 ・比べ方を考え、発表する。 ※日数が異なるため、比較しにくいことに気が付かせる。 ○ 3人が働いた日数と金額を、グラフ（座標）に表す。 ・縦軸を金額、横軸を日数とする。 ・3人の給料の変化をグラフ（座標）に記入する。 ○ 3人の給料の変化について、グラフを見て、気が付いたことを発表する。 ・傾きが大きいほど、日数に対する貯金額が高いことを確かめる。 ・グラフの縦軸の10万円に一番早く到達するのは、誰かを考える。 ○ <u>AさんとCさんの7日間目の給料はそれぞれいくらになるかを考える。</u> ・<u>グラフを使って調べるには、どうしたらよいか考え、発表する。</u> ・AさんとCさんのグラフの線を横軸の30日の部分まで伸ばし、その時の縦軸の金額がメモリを見る。 	<p>※ 「比の考え方を使って比べるには、どうしたらよいか。」と発問し、比の値を使うと良いことに気付かせる。</p> <p>※ 生徒の実態に合わせてパワーポイント教材等を活用してイラスト等を示して、数量の変化を捉えやすくする。</p> <p>※ 電卓を用意し、必要に応じて使用できるようにしておく。</p> <p>※ 生徒が使うグラフ用紙と同じものをモニター等に写し、正確に記入できるようにする。</p> <p>※ グラフから、傾きの大きさと貯金する金額の増え方の関連を考えさせる。</p> <p>※ グラフに色を付け、10万円のラインをわかりやすくする。</p>	<p>■ 比べ方を予想している。</p> <p>□ 行動観察</p> <p>■ グラフの傾きを見て、数量の変化について考えている。</p> <p>□ 行動観察</p> <p>■ グラフを活用するよさや便利さに気が付いている。</p> <p>□ 行動観察</p>
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ まとめ ・3人の給料の変化について、比の値を求め、発表する。 ・比の値が一日当たりの貯金額となることを確かめる。 ○ 振り返り ・本時の学習で分かったことを記入し、発表する（ワークシート）。 	<p>※ 比の値を使うと、知りたい数量を計算で求められることについてふれ、次時の学習活動へつなげる。</p>	<p>■ 比の値を使って考えるよさや便利さに気が付いている。</p> <p>□ 行動観察</p>

事例21 楽しみながら、自信をもって音読や発表に取り組む指導

【児童の実態】

言語障がい特別支援学級に在籍する小学校第1学年児童は、言語障がいの状態（吃音）から、話すことや言葉によるやり取りに自信が無く、相手との関わりや苦手な場面の中で緊張が強くなってしまふ様子が見られる。言語障がい特別支援学級の学級担任や友達との遊びや自由な会話の場面など、心理的に安心できる環境においては、自発的に自分の思いや考えなどを話す様子が見られる一方で、教科書の音読をしたり、読み取ったことを発表したりする学習場面では、児童の緊張が強くなる様子が見られる。

【単元の指導計画】

学年：小学校第1学年 単元名：「はたらく じどう車」 教材：小学校第1学年用国語科教科書

単元の目標

- ・身近なことを表す語句の量を増やし、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすることができる。【知識及び技能】
- ・時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えて読むことができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・文章の中の重要な語や文を考えて選び出しながらかよむことができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・それぞれの自動車の「やくわり」と「つくり」のつながりについて、説明を読んで分かったことを見通しをもって友達に説明することができる。【学びに向かう力、人間性等】

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 身近なことを表す語句の量を増やし、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。	① 「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 ② 「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。	① 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、学習の見通しを持って分かったことを説明している。

単元の指導計画

時	○主な学習活動 ・内容 ※指導上の配慮	知	思	態
1 ・ 2	○ 書かれていることの大体をつかむ ・ 自動車の写真や模型などを見ながら、名前や、その自動車のことで知っていること、もっと知りたいことなどについて発表し合う。 ※ <u>全ての学習活動において、思いを受け止めながら話を聞いたり、自由な雰囲気の中で、児童が楽に話すことができるようにしたりする。</u> ○ 教科書の本文を音読する。 ・ 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読する。 ※ 教師や他の児童と一緒に読むことで、児童が気持ちを楽しんで読めるようにする。 ※ 正しい発音についての聴覚的なフィードバックを得ることができるようにする。 ○ 単元の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">はたらくじどう車の「やくわり」と「つくり」をまとめる</div>			
		①	①	ポイント①
3 ・ 4 ・ 5 ・ ⑥	○ 教科書の本文を読み、それぞれのじどう車の「やくわり」と「つくり」をまとめる。 ・ 「やくわり」や、「やくわり」に合わせた「つくり」とはどのようなものか。 ※ 話したり書いたりすることの苦手さを補う方法として、タブレット等への平仮名入力や、音声の自動読み上げ機能の活用についても検討する。 ○ それぞれのじどう車の「やくわり」と「つくり」を説明する。 ・ まとめたことを基に、友達に説明する。 ・ 友達の説明の良かった点などを伝え合う。 ※ <u>楽しく話したり、発表を褒められたりすることとおして、意欲の向上につなげる。</u> ※ <u>学習の成果を的確に捉え、個別の指導計画の指導内容、指導方法の改善・充実につなげる。</u>			
			②	①
				ポイント①
				ポイント③

【一単位時間の指導計画】

本時の目標

- ・はたらくじどう車の「やくわり」と「つくり」のつながりについて、読み取ったことを基にまとめることができる。【思考力、判断力、表現力等】

本時の展開（6／6時間）

	○主な学習活動 ・内容	※指導上の配慮	■評価規準 □評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習事項の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・ショベルカーの「やくわり」と「つくり」のまとめを思い出す。 ○ 学習課題の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ポンプ車の「やくわり」と「つくり」をまとめる。 </div> ○ 写真や模型を見ながら、ショベルカーについて知っていることを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ <u>自由な雰囲気の中で、児童が楽に話すことができる雰囲気を作る。</u> ※ <u>言葉が出なくなったときは、児童が話し終わるまで、話の内容に注目しながら聞くようにする。</u> 	<div style="background-color: black; color: white; padding: 5px; display: inline-block;">ポイント①</div>
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文を音読する。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書p16を斉読する。 ・「やくわり」と「つくり」に対応する文は何か考えながら読む。 ○ ポンプ車の「やくわり」と「つくり」をまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ノートの表に手書きしたり、ICTを活用して文字を入力したりする。 ○ ポンプ車の「やくわり」と「つくり」を説明する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ノート等にまとめたことを基に説明する。 ○ 説明の良かった点を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・発表の良かった点を認める。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 教師と一緒に音読する。 ※ 児童の聴覚的なフィードバックを行うことを意識して読む。 ※ <u>ノートのほか、タブレット端末への文字入力等、ICTの活用について検討する。</u> ※ ノートやタブレット端末の画面を拡大表示したり、タブレット端末の音声読み上げ機能を活用したりする。 ※ 児童に対して共感的に接しながら、児童の話している内容に興味を持って聞くようにする。 ※ <u>発表のよい点や頑張ったところを認め合い、温かな人間関係を構築する。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「やくわり」と「つくり」に対応する文を考えながら読んでいる。 □ 行動観察 ■ 「やくわり」と「つくり」に対応する文を選んで □ ノート等、机間巡視 <div style="text-align: center;"> <div style="background-color: black; color: white; padding: 5px; display: inline-block;">ポイント②</div> </div> <div style="text-align: center;"> <div style="background-color: black; color: white; padding: 5px; display: inline-block;">ポイント①</div> </div>
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・ポンプ車の「やくわり」と「つくり」についてまとめる。 ○ 振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・説明を行ったり、友達の説明を聞いたたりした感想について発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 単元の中で扱った自動車を振り返り、様々な役割に合わせた「つくり」があることを確認する。 	

事例22 数の仕組みへの理解を深める指導

【児童の実態】

小学校自閉症・情緒障がい特別支援学級第4学年の児童は、聴覚的な情報を処理することよりも、視覚的な情報を処理することの方が得意であるという「視覚認知の優位」がある。学習の状況は、具体物や図・絵を用いることで、当該学年の学習内容を習得している。興味や関心のない事柄に対しては、学ぼうとする意欲が高まらない場合もあることや、想像することが難しい場合がある。児童の特性に応じて問題数を多くした取り組みや、既習事項を活用しやすくするなどして学習に取り組んでいる。

【単元の指導計画】

学年：小学校第4学年 単元名：「小数と整数のかけ算、わり算」 教材：小学校第4学年用算数教科書

単元の目標

- ・ある量の何倍かを表すのに小数で表すことができる。【知識及び技能】
- ・乗数や除数が整数である場合を参考にして、小数の乗法及び除法の計算をすることができる。【知識及び技能】
- ・数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、計算の仕方を見るとともに、それを日常生活に生かすことができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・「小数×整数」、「小数÷整数」について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりする。【学びに向かう力、人間性等】

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① ある量の何倍かを表すのに小数を用いている。 ② 「小数×整数」、「小数÷整数」の除法の意味について理解し、それらの計算ができています。	① 数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、計算の仕方を見るとともに、それを日常生活に生かしている。	① 「小数×整数」、「小数÷整数」の計算の仕方について、既習の計算などをもとに粘り強く考えたり、数学的に表現・処理したことを振り返り多面的に検討してよりよい方法を見出そうとしたりしている。

元の指導計画

時	○主な学習活動 ・内容 ※指導上の配慮	知	思	態
1 ～ 4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第2～3学年で履修している「何倍かを求める課題」を振り返る。 ○ 「小数×整数」の乗法の計算の仕方を理解する。 ※ 具体物を用意し、実際の場面を体験する場面を設定する。 ○ 単元の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">何倍かを表す数が小数になる場合があることを理解する</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「小数×整数」で、1/100や1/1000の位までの乗法の計算の仕方を理解する。 ※ <u>各教科等における自立活動に関する目標に対する自己評価や教師による評価を取り上げ特性による困難さを正しく認識する学習内容を行う。</u> 	②	①	
5 ～ 12	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「小数÷整数」の計算の仕方を理解する。 (小数を整数でわる計算、わり算、商の四捨五入、あまりのあるわり算) ○ <u>何倍かを表す数が小数になる場合があることを理解する。</u> ・40cmのリボンと100cmのリボンの長さを比べることをとおして、2.5倍のように何倍かを表す数が帯小数になる場合があることを知る。 ※ 100cm、40cmのリボンの長さ比べをしている映像を提示する。 ※ <u>児童が数量の関係をイメージできるように、児童の経験に基づいた場面や興味がある題材を取り上げる。</u> ※ <u>場面を具体物を用いて動作化させたり、解決に必要な情報に注目できるような文章を一部分ごとに示したり、図式化したりすることなどの工夫を行う。</u> 	① ②	①	
13 ～ 15	<ul style="list-style-type: none"> ○ 何倍かを表す数が小数になる場合があることを理解する。(0.5倍) ○ 身のまわりの事象を数理的に捉え、小数と整数の乗法、除法を活用できる場面を見出す。 ○ 学習内容の理解を確認し、確実に身に付ける。 ・単元のまとめをする。 	① ②		

ポイント③

ポイント①

【一単位時間の指導計画】

本時の目標

- ・リボンの長さを比べることを通して、基準量を1とした時に幾つに当たるかについて考える。

【思考力、判断力、表現力等】

本時の展開（12/15時間）

	○主な学習活動 ・内容	※指導上の配慮	■評価規準 □評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見通しをもつ。 ・本時の流れと、終わった後の活動を確認する。 ○ <u>既習事項を確認する。</u> ・2倍を求める課題に複数取り組む。 ○ 問題をつかむ 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 気持ちが不安定な様子が見られる場合は、感情チェックシートを用いて言語化し、必要に応じて別室に移動するなど、気持ちの安定を図る。 ※ 授業中のルールを確認する。 ※ 注意されたときに、自ら落ち着くことができる場所に移動する。 ※ <u>過去に履修している「何倍かを求める課題」のプリントを複数種類用意しておく。</u> <u>（児童が興味のある題材を取り扱う。）</u> ※ ワークシートを用意し、手元に注意集中しやすいようにする。 	<p>ポイント①</p>
	40cmを1と見立てた場合、100cmは何倍になるか予想して求めよう		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「40、80、100、120」の長さの具体物（テープやブロック）を用意し、個人思考する。 ※ 「40の2倍が80」、「40の3倍が120」になることに気付かせ、「40を1と考えること」に気付けるようにする。 ○ 考えを共有し、検討する。 ・個人で考えたことを交流する。 ○ <u>2.5倍のように、何倍かを表す数が小数になることがあることを知る。</u> ○ 適用問題に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 身近にある（テープやブロック等）大きさをイメージしやすい具体物を操作する。 ※ ヒントがほしい場合は、パワーポイント等を使用した比較動画を視聴することを選択できるようにする。 ※ 個に応じて、個人での考えを書いた紙やノートの写真撮影や、直接の説明を録画するなどして、大型テレビで共有する。 	<p>ポイント②</p> <p>■ 40cmを1とみることに着目し、計算の仕方を考えている。</p> <p>□ 行動観察、ノート分析</p>
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ まとめ 		<p>□ 振り返りワークシート</p> <p>□ Googleフォーム</p> <p>ポイント③</p>
	1とみる大きさによって、2.5倍のように、何倍かを表す数を小数で求めることができた		
	<ul style="list-style-type: none"> ・計算の仕方をまとめたり、まとめた計算の仕方が正しいかを確認したりする。 ・日常生活で使用されている小数を使った倍数を探して交流する。 ○ 振り返り ・本時で身に付けたことを振り返る。 ・各自の振り返りの内容を交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 食料品や生活用品のチラシ、インターネットにより検索する。 ・数値化したりワークシートを提示したりするなど、ICT機器の集計ソフト等で回答できるように教材を工夫する。 ※ 大型テレビ等に、振り返り時に記入したデータを映し、共有する。 	

事例23 自分や友達の考えを可視化し考えを深める指導

【生徒の実態】

中学校自閉症・情緒障がい特別支援学級第1学年の生徒は、抽象的な表現の内容や、指示の内容の具体的な理解が難しいことがある。そこで、指示の内容や作業手順、時間の経過等を視覚的に把握できるように教材・教具等の工夫を行うことを通して、当該学年の学習内容を習得できるようにしている。国語科の「読むこと」の領域では、文章の中のキーワードを示したり、図や矢印などで視覚的に分かるように示してから言葉で表現させたりするなどして学習に取り組んでいる。

【単元の指導計画】

学年：中学校第1学年 単元名：「自分の脳を知っていますか」 教材：中学校第1学年用国語科教科書

単元の目標

- ・原因と結果、意見と根拠など、情報と情報との関係について理解することができる。【知識及び技能】
- ・文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈することができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・粘り強く文章の要旨を把握し、学習課題にそって筆者の考えをまとめている。【学びに向かう力、人間性等】

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。	① 「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述をもとに筆者の考えを捉え、要旨を把握している。 ② 「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。	① 粘り強く文章の要旨を把握し、学習課題に沿って筆者の考えをまとめようとしている。

単元の指導計画

時	○主な学習活動 ・内容 ※指導上の配慮	知	思	態
1 ・ 2	○ 単元の学習課題を確認する。 「脳の奇妙な癖」を理解し、筆者の考えをまとめる ※ 文章の理解や表現に時間がかかる場合には、コンピュータの読み上げ機能、教師による範読、1行だけ見えるスリットの活用、文字を拡大したプリントなど、自己選択・自己決定する場面を事前に設定する。	①		
3	○ 「おとり効果」の有効な点と問題点を整理する。 ・言葉の意味を調べたり、使用している文例を探して交流する。 ・有効な点と問題点を文章から読み取り、ワークシートを用いて整理する。 ※ 共同編集ができるICT機器のソフトや、会話を文字認識できるICT機器等を用いて意見を交流する。 ※ 学級及び生徒の実態に応じて、あらかじめ録画したロールプレイの発言等を用いて、対話的な活動を保障する。		①	
4 ・ 5	○ 文章の構成を捉え、要約する。 ※ 過去に学習している「比較・分類・順序」、「関係付け」、「分析・考察」、「評価」等の表現の例を提示し、要約する際に参考となる資料を提示する。 ○ 筆者の考えをまとめる。 ※ 口頭で説明することが苦手な生徒に対して、事前に説明する文章を文字にししたり、音声で録音したりする活動を学習課題に取り入れる。 ※ 評価基準を事前に説明し、評価を記入するワークシートを提示する。		②	①

ポイント①

ポイント②

ポイント③

【一単位時間の指導計画】

本時の目標

- ・「おとり効果」の有効な点と問題点を文章から読み取り、筆者の考えを解釈する。

【思考力、判断力、表現力等】

本時の展開（3／5時間）

	○主な学習活動 ・内容	※指導上の配慮	■評価規準 □評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見通しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・本時の流れと、終わった後の活動を確認する。 ・本時の授業に取り組む際に気を付ける点や授業中のルールを確認する。 ○ 前時までの振り返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・本文を読み返し、「おとり効果」、「脳の奇妙な癖」について、振り返る。 ・読んで、「感じたことや考えたこと」を書き留め、交流する。 ○ 問題をつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 気持ちが不安定な様子が見られる場合は、感情チェックシートを用いて言語化し、必要に応じて別室に移動して落ち着くよう支援する。 ※ <u>既習事項を振り返るワークシートを見ながら、必要なことを確認し学習活動に取り組む。</u> ※ 感じたことや考えたことを、付箋に書き出すなど実態に応じて文字化させる。 	
	「おとり効果」の有効な点と問題点を整理してまとめながら表してみよう		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考えをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えについて文字数を限定してスライドにまとめる。 ○ 小グループで思考する。 <ul style="list-style-type: none"> ・個人で考えたことを交流する。 ○ 個人で考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・他者の意見を聞いて、個人で考えを整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ <u>文章の中のキーワードを示したり、図や矢印などで視覚的に分かるように示してから言葉で表現させるなどの配慮をする。</u> ※ <u>文章の中のキーワードを抜いた穴埋めプリントを示す等、類似する言葉を教師が提示するなどの配慮をする。</u> ※ 共同編集ができるICT機器のソフトに、個人で考えを入力する。 ※ 共同編集ができるICT機器のソフトや、会話を文字認識できるICT機器等を用いて意見を交流する。 ※ 自分の考えと友達の考えの相違点に注目できるよう、図や矢印などで視覚的に分かるように示す。 	<p>■筆者の考えを捉え、要旨を把握している。</p> <p>ポイント①</p> <p>■要約し、内容を解釈している。 □行動観察、ノート</p> <p>ポイント②</p>
	有効な点と問題点を表している文章を付箋に書き出し、自分や友達の考えを確認し合うことで自分の考えをまとめて表すことができた		
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ 振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・本時で身に付けたいことを振り返る。 ・次時の授業に取り組む際に気を付けたことを振り返る。 ・各自の振り返りの内容を交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 振り返り時の教材の工夫 ※ <u>学級及び生徒の実態に応じて、他校の生徒や前年度の生徒の発言等を用いて、対話的な活動を保障する。</u> ・<u>自分の理解度を数値化したり、ワークシートを提示したり、ICT機器の集計ソフト等で回答できるように教材を工夫する。</u> ※ 考えたことを発表する際に、事前に口述したものを録音する、文字言語としてまとめるなどの時間を設定する。 ※ 大型テレビ等に、振り返り時に記入したデータを共有する。 	<p>ポイント③</p>

事例24 身近なデータを活用した指導

【生徒の実態】

中学校自閉症・情緒障がい特別支援学級第1学年の生徒は、抽象的な表現が意味する指示の内容を具体的に理解することが難しいことや、考えたことを相手に言葉で伝えること、注意を持続させることなどに困難さがある。数学科では、指示の内容や作業手順、時間の経過等を視覚的に把握できるように教材・教具等の工夫を行うことや、意思表示する方法をあらかじめ生徒と相談すること、指示や課題を段階的に順に示すことなどを通して、当該学年の学習内容を習得することができるようになってきている。

【単元の指導計画】

学年：中学校特別支援学級第1学年 単元名：「度数の分布」 教材：中学校第1学年用数学科教科書

単元の目標

- ・ヒストグラムや相対度数などの必要性和意味を理解している。【知識及び技能】
- ・コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理することができる。【知識及び技能】
- ・目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断することができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・ヒストグラムや相対度数などのよさに気付いて粘り強く考え、学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って検討しようとしたり、多面的にとらえ考えようとしている。【学びに向かう力、人間性等】

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① ヒストグラムや相対度数などの必要性和意味を理解している。 ② コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理している。	① 目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断している。	① ヒストグラムや相対度数などのよさについて考えている。 ② ヒストグラムや相対度数などについて、学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って検討しようとしたりしている。

単元の指導計画

時	○主な学習活動	・内容	※指導上の配慮	知	思	態
1 2 3	○ 階級の幅の意味を知る。 ・階級の区間の幅を「階級の幅」ということを知る。 ※ 必要に応じて、下学年の内容である「階級」や「度数」の意味を確認する。 ○ 階級の幅を変えた2つのヒストグラムを作成し、グラフの形の違いについて気付いたことを表現する。 ・表計算ソフト等の作図機能を使用して、階級の幅を変えたヒストグラムを作成する。			①	①	①
4 5 6	○ 範囲、階級値の意味を知るなど。 ・データを基にして、最大値から最小値を引いた「範囲」を求める。 ※ 「範囲」の意味について図示することで理解を促す。 ・度数折れ線の学習と関連付け、階級から「階級値」を求める。 ○ 度数分布表で階級値を用いて最頻値を求める。			②		②
7 8 9	○ 相対度数を使って、2つのデータの分布の傾向を比較する。 ・データの傾向の比較から分かったことを交流する。 ○ 相対度数の折れ線グラフを書く。 ・表計算ソフト等の作図機能を使用して、 <u>グラフを作成する。</u> ○ 累積度数の意味、累積相対度数の意味を知る。 ○ 累積相対度数を使って、ある階級未満または以上の度数の全体に対する割合を求める。		ポイント③	①	①	②

※障がい特性に配慮した観点から、内容を焦点化・精選した単元構成としています。

【一単位時間の指導計画】

本時の目標

- ・累積度数、累積相対度数を基にして、データの分布の傾向を読み取り、表現することができる。

【思考力、判断力、表現力等】

本時の展開（8／9時間）

	○主な学習活動 ・内容	※指導上の配慮	■評価規準 □評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見通しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・本時の流れと、終わった後の活動を確認する。 ○ 前時までの振り返りを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・度数の合計が違って、分布の様子を比較することができることを思い出す。 ○ 問題をつかむ 	<p>※ <u>定着が不十分な場合は、「度数」や「相対度数」、「階級」などの意味について、前時までの学習の振り返りを行う。</u></p>	<p>ポイント①</p>
	<p>待ち時間が30分未満の病院に行くために、調べたりやってみたりして求めよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待ち時間が30分未満の病院に行きたいとき、A病院とB病院のどちらの病院に行けばよいか考える。 	<p>※ A病院とB病院の患者の待ち時間について、一週間分を調べた表を提示する。</p>	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 早く診察してもらえそうな病院を選び、その理由を考え、プリントに記入する。 <ul style="list-style-type: none"> ・記入した内容を発表する。 ・「患者数の少ない病院の方が、待ち時間が短い」とは言い切れない理由を考える。 ○ 累積度数と累積相対度数の意味を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・累積度数と累積相対度数の求め方を考える。 ・小さい階級の度数から順に足していき、累積度数を求める。（ワークシート） ・小さい階級の相対度数から順番に足していき、累積相対度数を求める。（ワークシート） ○ 待ち時間が30分未満、40分未満、50分未満の病院に行きたければどちらを選べば良いか考え、記入する。（ワークシート） 	<p>※ 言葉で述べるのが難しい場合には、プリントを提示して交流する。</p> <p>※ 問いをモニターに表示する。</p> <p>※ <u>作図の手順表を用意し、手順に沿って取り組めるようにする。</u></p> <p>※ お小遣いの貯金など生徒にとって身近な具体例を示し、「累積」という言葉の意味や使われ方が分かるよう説明する。</p> <p>※ ワークシートはどこに何を記入すればよいか、どこまで取り組んだら終わりがわかるよう表を使って作成し、生徒が書き込むようにする。</p> <p>※ 個別に取り組む時間を20分間とし、タイムタイマーを使用して提示する。</p>	<p>■ 着目したデータ同士を比較して考えている。</p> <p>□ 発言、記述</p> <p>ポイント②</p> <p>■ 累積相対度数の違いから、病院の混み具合を判断している。</p> <p>□ ワークシート</p>
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ まとめ <p>累積相対度数を使うと、ある階級未満、あるいは、ある階級以上の度数の全体に対する割合を知ることができた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記述し、交流する。 ○ 振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・本時において、それぞれの生徒の取組を評価し、伝える。 ○ 適用問題 <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容の定着を図る。 	<p>※ 答え方の構文を示す。</p> <p>※ 書き終わったら、指定された語句にマーカーを引くよう指示する。</p> <p>※ 課題を3つに分けて、終わったものは評価をしてから、次の課題を提示する。</p>	<p>■ 指定された語句を使って表現している。</p> <p>□ 記述</p> <p>□ 教科書のまとめの問題やプリント等</p>

事例25 読み書きに関する困難を改善する指導

【個別の指導計画】

児童氏名（生年月日）		在籍校 学年	
●● ●●（平成〇年〇月〇日生）		〇〇市立●●小学校 第3学年	
診断・検査等		在籍校での様子	
・診断名：発達性ディスレクシア ・WISC-IV知能検査（令和2年〇月〇日実施） FSIQ 90、VCI 103、PRI 74、WMI 109、PSI 83		・発想力や感受性が豊かで、行動力がある。 ・言語指示を聞いて、理解することができる。 ・話が飛躍することが多く、相手に伝わるように話すことが苦手である。 ・漢字の形や読みを覚えられなかったり、覚えてもすぐに思い出すことができなったりする。 ・算数科において、計算問題は正しくできるが、文章問題は文章を読み立式することが難しい。 ・板書をノートに書き写したり、自分の考えを文章にまとめたりすることが苦手であり、学習活動に対して消極的である。	
考えられる特性など			
・集中力が弱く、細部に注目することが苦手。 ・眼球の動きがスムーズではなく、見間違えが多い。 ・模倣や協調運動が苦手、指先の不器用さがある。 ・語彙が少なく、長い文章を読んで内容を理解することに困難さがある。 ・単語をまとまりで捉えることが苦手、流ちょうに文章を読んだり、内容を理解したりすることが難しい。			
長期目標（1年間）		ポイント②	
・当該児童のよさである発想力や感受性を生かしつつ、読むことや書くことの苦手さを補う代替手段を場に応じて活用することで、意欲的に学習に取り組むことができる。		ポイント①	
短期目標			
指導目標 《 》は関連する自立活動の項目	指導内容及び手立て	評価・修正	
【文の読み】 ◇ ICT機器による音声教材や読み上げ機能等の活用で習熟し、読解の困難を代替手段により補完する。★1 ◇ 方略を活用して短い文章の内容を理解したり、数行の文章の概要を理解したりすることができる。 《心(3)、環(2)》	○ ICT機器による読み上げ等の習熟 ・音声教材等の操作に慣れ、使いこなす。 ・検索機能を活用し、新出語句を調べる。 ○ スラッシュ読み ★2 ・語のかたまりごとに／（スラッシュ）で区切り、一文のイメージをつかむ。 ○ 要約読み ・数行の文章を読み、「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」などの3W1Hについて穴埋め形式で整理し、要約する。	・家庭において、デジタル教科書の読み上げによる予習が定着し、授業での挙手や発言が増えた。 ・文を読む際に、自分でスラッシュを入れて読んだり、「いつ」「どこで」など視点を定めて読んだりすることで、内容をほぼ正しく理解することができた。	
【作文】 ◇ 見たことや経験したことを単文で書き表すことができる。 ◇ 決められたテーマについて見る、聞く、調べる等したことを、キーワードや短い文の情報として集め、概要を文章にすることができる。 《心(3)、身(3)》	○ 単文作り ※ICT機器の活用含む ・一行日記を書く（毎日の宿題） ○ 4コマ作文 ※ICT機器の活用含む ・単文スキル～4コマ漫画の1コマずつを単文で記述する。★3 ・文をつなぐスキル～2つの文を接続詞で1文につなげて、記述する。 ・要約スキル～4コマ漫画全体を要約し、1～2文で記述する。★6 ○ ICT機器のマッピングソフトの活用 ・テーマについて思い付く言葉を入力し、「いつ」「どこで」「だれが」「どんなことをした」などの3W1Hで整理したり、具体的な話や感想などを加えたりして、文章で表す。★4 ・作成した文章を他の児童と交流し、互いの違いやよさについて伝え合う。★5	・一行日記では、その日の印象に残ったことを家族と話しながら、主語一述語のある単文で書けるようになった。 ・マッピングソフトを活用し、教師と話しながら複数のキーワードや文をつなげて整理し、3W1Hを意識した概要を書けるようになってきた。	
在籍校との連携状況（合理的配慮を含む）			
・ICT機器による読み上げ機能等を活用し、読解を補助する。 ・ICT機器を活用し、自分の考えを下書きしたり、ノートやワークシート等の記入に代えたりする。			

【当該児童が在籍する通常の学級における一単位時間の指導計画（国語科）】

学年：小学校第3学年 単元名：『発見ノート』を作ろう

本時の目標

- ・相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから、書くことを選ぶことができる。

【思考力、判断力、表現力】

本時の展開

	○ 主な学習活動 ・内容	※ 指導上の配慮	■評価規準 □評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の見通しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書を読み、「発見ノート」の取組を確認する。 ・「発見ノート」には、生活の中で発見したこと、不思議だと思っただことを書くことを理解する。 ○ 本時の学習課題を確認する。 	<p>予習時に本児が教科書本文にスラッシュを入れ、読みやすくしておく。★2</p> <p>※ 教師が作った「発見ノート」の見本を提示し、完成の見通しをもてるようにする。</p> <p>書くことに負担を感じ過ぎないように、1つでも書ければよいことを伝える。</p>	<p>デジタル教科書を活用して教科書を予習することにより、授業で安心して意欲的に音読したり発問に答えたりすることができるようにする。★1</p> <p>ポイント①</p>
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発見ノートの書き方を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・発見ノートに書く具体的な内容を確認する。 ○ 発見したことや不思議に思ったことを集める。 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに、書きたいことやそれに対する自分の考え、その理由等を記入する。 ・発見したことをタブレット端末で写真に撮り、発見ノートに貼る。 ○ 書きたい順に番号を付ける。 	<p>※ 発見ノートを書く際のポイントを、教師の見本を基に伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつ、どこで発見したことか。 ・なぜ、新発見だと思ったのか。 ・発見にまつわる疑問は何か。 <p>言葉が整理できないときは、「単文スキル」を踏まえ、タブレット端末で撮影した写真をもとに単文を作ってもよい。書きたいことがまとまらない場合は、複数の文で作成し、次時に要約することを伝えておく。★3</p> <p>必要に応じてタブレット端末のマッピングソフトを活用し、「発見したこと」を入力し、「いつ」「どこで」「何が」「どうだった」の3W1Hの文で整理する。★4</p>	<p>■経験したことや想像したことなどから書くことを選んでいる。</p> <p>□ワークシート、タブレット端末</p> <p>ポイント③</p> <p>ポイント③</p>
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ 書いた内容を交流する。 <ul style="list-style-type: none"> ・友達とワークシートを見せ合い、書きたいことの内容や順番について交流する。 ・分かりやすい書き方について気付いたことをメモする。 ○ 本時の学習内容をまとめる。 ○ 次時の予告 <ul style="list-style-type: none"> ・見出しを考える ・発見ノートを清書する。 	<p>※ 交流する視点を伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分と友達の書き方の違い ・書き方による分かりやすさの違い <p>タブレット端末を友達に見せて交流する。必要に応じて、友達の文章を写真に撮り、スラッシュを入れながら読んだり、読み上げアプリを活用して確認したりすることを促す。★5</p> <p>次回の見出し作りでは、4コマ作文の要約スキルを活用する。複数の文を単文にまとめる場合は、つなげるスキルを活用する。★6</p>	<p>ポイント②</p>

発見したり、ふしぎだと思ったりしたことを集めて、比べてみよう。

「いつ」「どこで」「なぜ」が分かると、集めた材料をくらべやすい。

：当該児童への配慮

★○：通級指導教室での指導との関連性